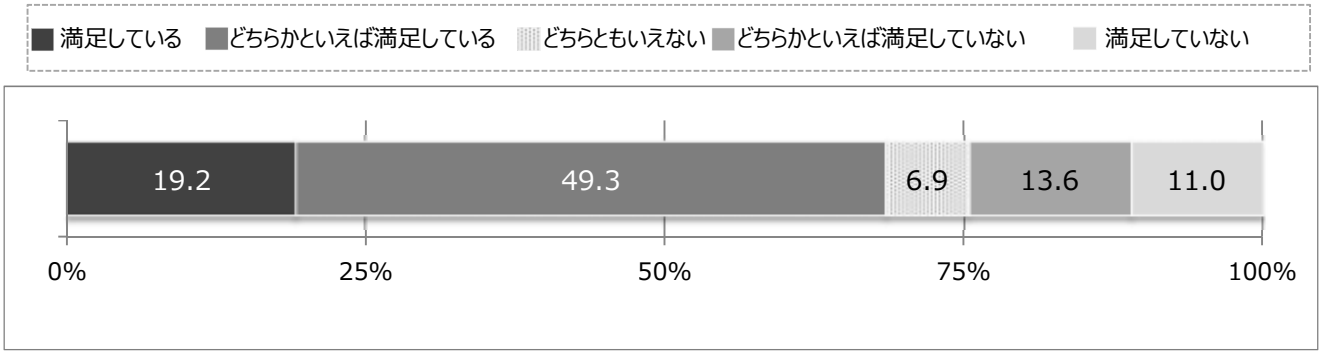
第4章 主要な設問

1 生活満足度

現在の生活に満足していますか。

一般市民
Q1
n=2,154

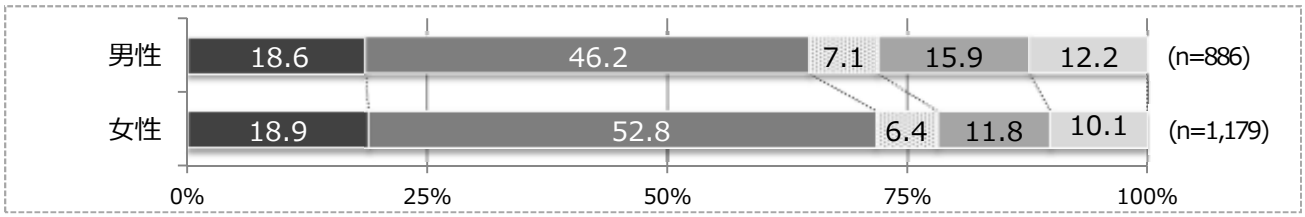


生活満足度については、「満足している」(19.2%)、「どちらかといえば満足している」(49.3%)と回答した割合の合計が 68.5%となった。一方で「満足していない」(11.0%)、「どちらかといえば満足していない」(13.6%)と回答した割合の合計は 24.6%となった。

平成 26 年度、平成 27 年度調査結果との比較

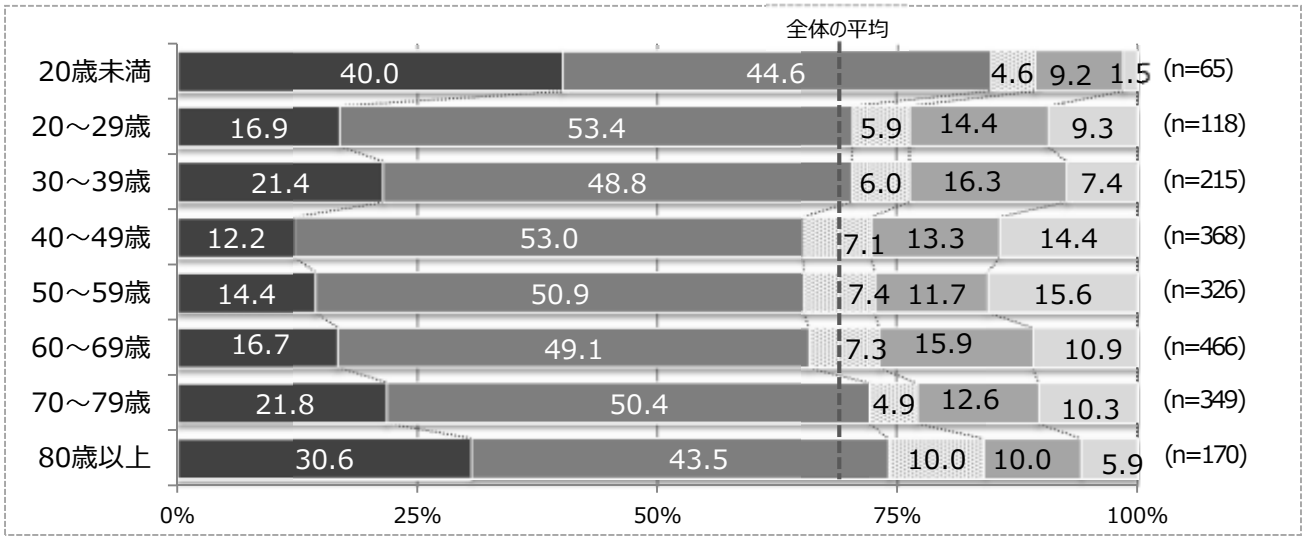
過去の調査結果と比較すると、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計(68.5%)は、平成 26 年度(65.0%)から増加する傾向がみられた。

男女別構成とのクロス集計 n=2,065



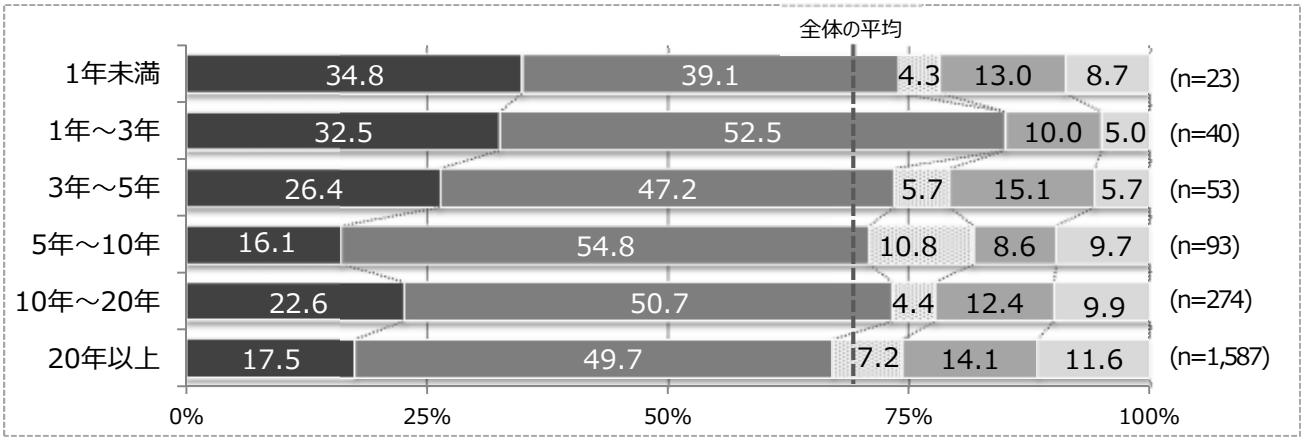
男女別に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を比較すると、「女性」(71.7%)が「男性」(64.8%)を上回った。

年齢階層別構成とのクロス集計　n=2,077



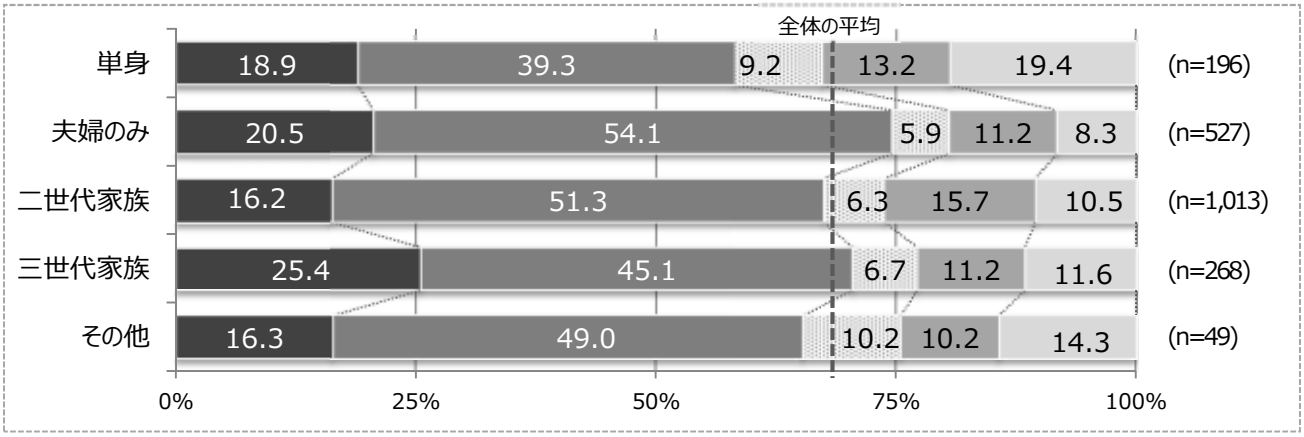
年齢階層別に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均（68.5%）と比較すると、「20 歳未満」（84.6%）が平均を大きく上回り、「80 歳以上」（74.1%）、「70～79 歳」（72.2%）、「20～29 歳」（70.3%）、「30～39 歳」（70.2%）でも平均を上回った。一方で「40～49 歳」（65.2%）、「50～59 歳」（65.3%）、「60～69 歳」（65.8%）では平均を下回った。

居住年数別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,070



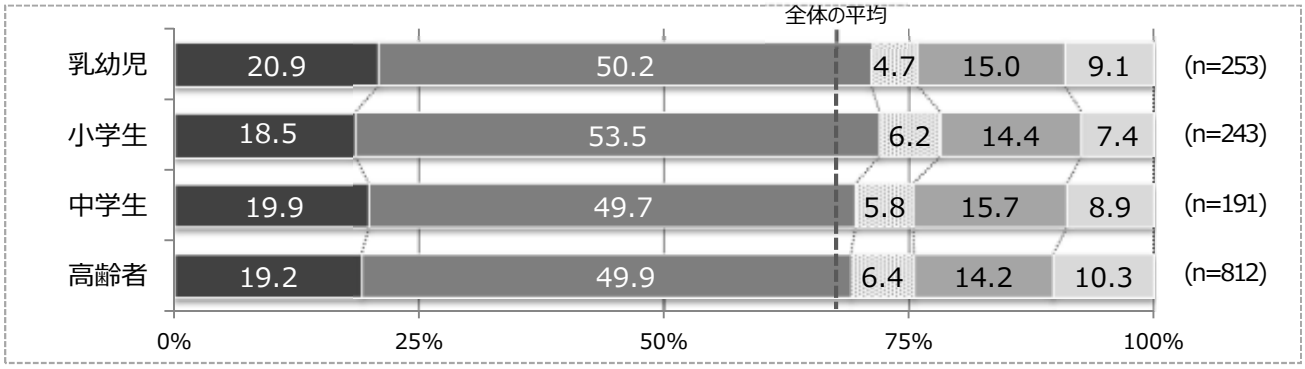
居住年数別に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均（68.5%）と比較すると、「1 年以上 3 年未満」（85.0%）が平均を大きく上回り、「1 年未満」（73.9%）、「3 年以上 5 年未満」（73.6%）、「10 年以上 20 年未満」（73.3%）、「5 年以上 10 年未満」（70.9%）でも平均を上回った。一方で「20 年以上」（67.2%）では平均を下回った。

家族構成とのクロス集計　n=2,053



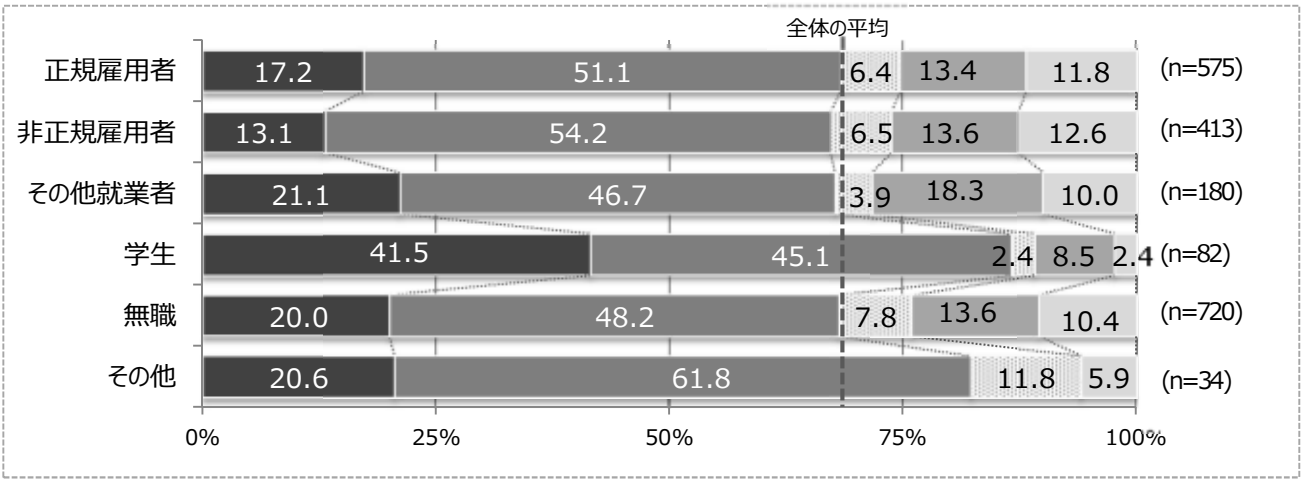
同居家族別（「その他」を除く）に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均（68.5%）と比較すると、「夫婦のみ」（74.6%）、「三世代家族」（70.5%）が平均を上回った。一方で「単身」（58.2%）では平均を大きく下回り、「二世代家族」（67.5%）でも平均を下回った。

乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯とのクロス集計



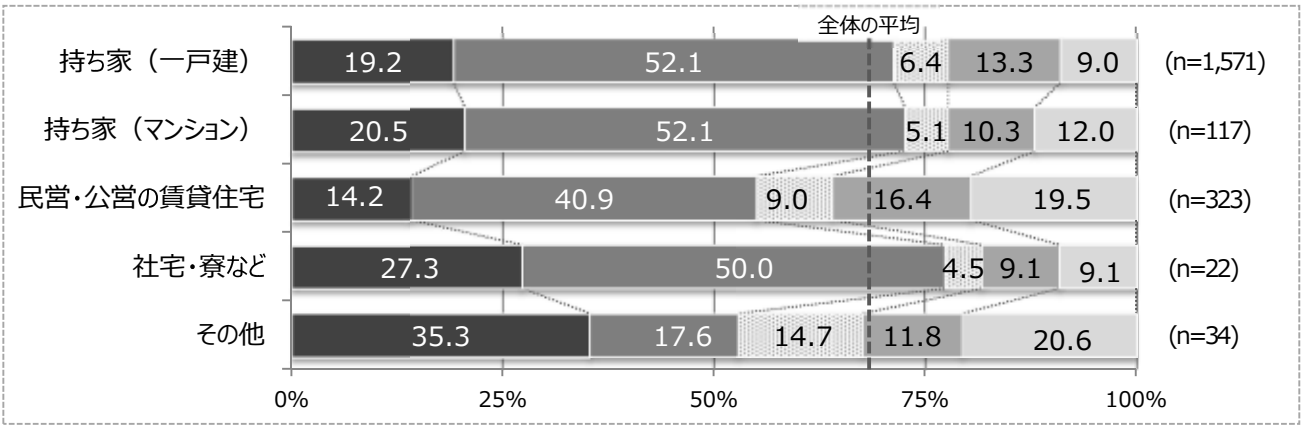
乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均（68.5%）と比較すると、「小学生」のいる世帯（72.0%）、「乳幼児」のいる世帯（71.1%）、「中学生」のいる世帯（69.6%）、「高齢者」のいる世帯（69.1%）で平均を上回る、または近似した値となった。

職業別構成とのクロス集計　n=2,004



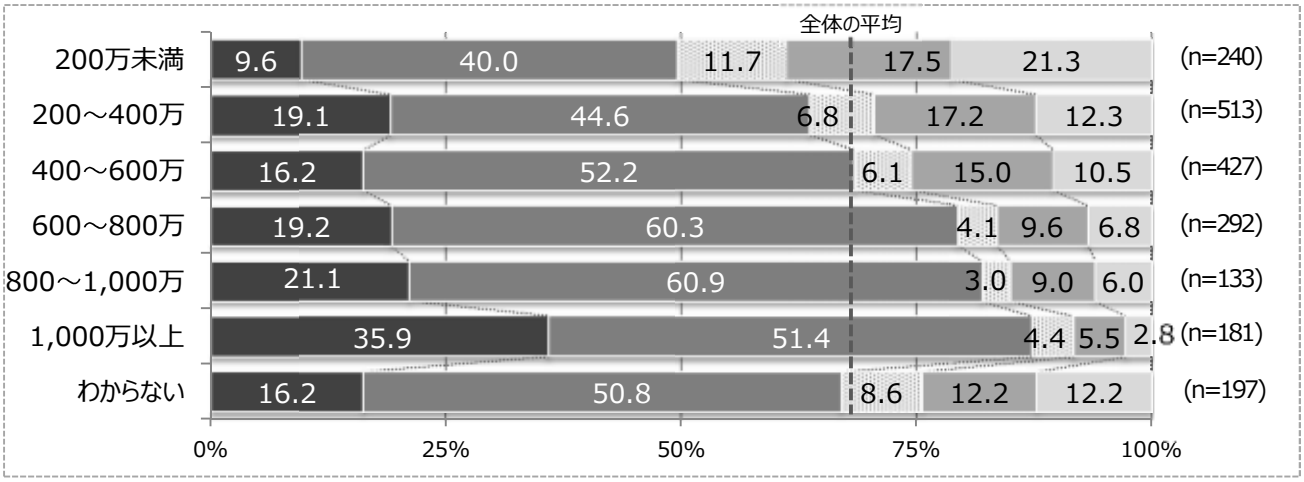
職業別(「その他」を除く。職業別構成の定義については 9 ページ参照)に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均(68.5%)と比較すると、「学生」(86.6%)が平均を大きく上回った。一方で「その他就業者」(67.8%)、「非正規雇用者」(67.3%)、「無職」(68.2%)、「正規雇用者」(68.3%)では平均を下回る、または近似した値となった。

住宅構成とのクロス集計　n=2,067



住宅別(「その他」を除く)に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均(68.5%)と比較すると、「社宅・寮など」(77.3%)、「持ち家(マンション)」(72.6%)、「持ち家(一戸建)」(71.3%)が平均を上回った。一方で「民営・公営の賃貸住宅」(55.1%)では平均を大きく下回った。

世帯収入別構成とのクロス集計　n=1,983

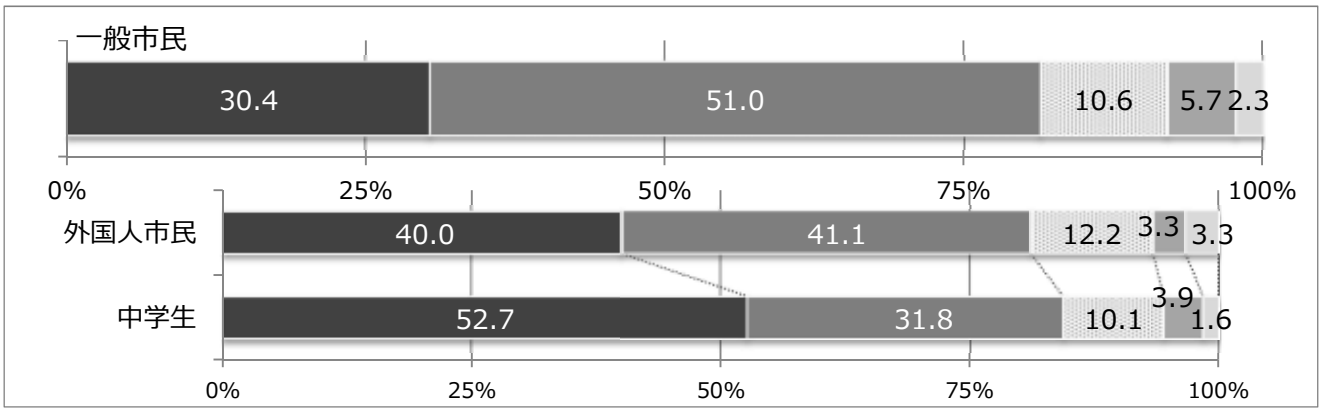


世帯収入別（「わからない」を除く）に、「満足している」、「どちらかといえば満足している」と回答した割合の合計を全体の平均（68.5%）と比較すると、「1,000 万円以上」（87.3%）、「800 万円以上～1,000万円未満」（82.0%）、「600万円以上～800万円未満」（79.5%）が平均を大きく上回った。一方で「200 万円未満」（49.6%）では平均を大きく下回り、「200 万円以上～400 万円未満」（63.7%）、「400 万円以上～600 万円未満」（68.4%）でも平均を下回る、または近似した値となった。

2 幸福感

現在、あなたは幸せだと感じますか。

一般市民	外国人市民	中学生
Q32	Q5	Q6
n=2,132	n=90	n=129



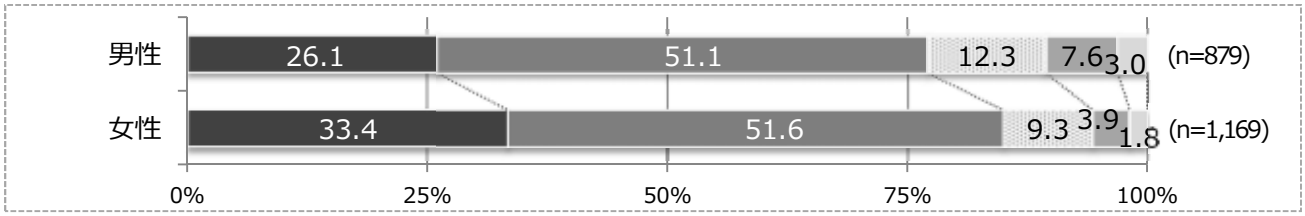
幸福感（一般市民）については、「幸せだと感じる」（30.4%）、「どちらかといえば幸せだと感じる」（51.0%）と回答した割合の合計が 81.4%となった。一方で「不幸せだと感じる」（2.3%）、「どちらかといえば幸せでないと感じる」（5.7%）と回答した割合の合計は 8.0%となった。

また、調査対象別に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を比較すると、「中学生」（84.5%）が「一般市民」（81.4%）を上回った。一方で「外国人市民」（81.1%）では「一般市民」（81.4%）と近似した値となった。

平成 26 年度、平成 27 年度調査結果との比較（一般市民）

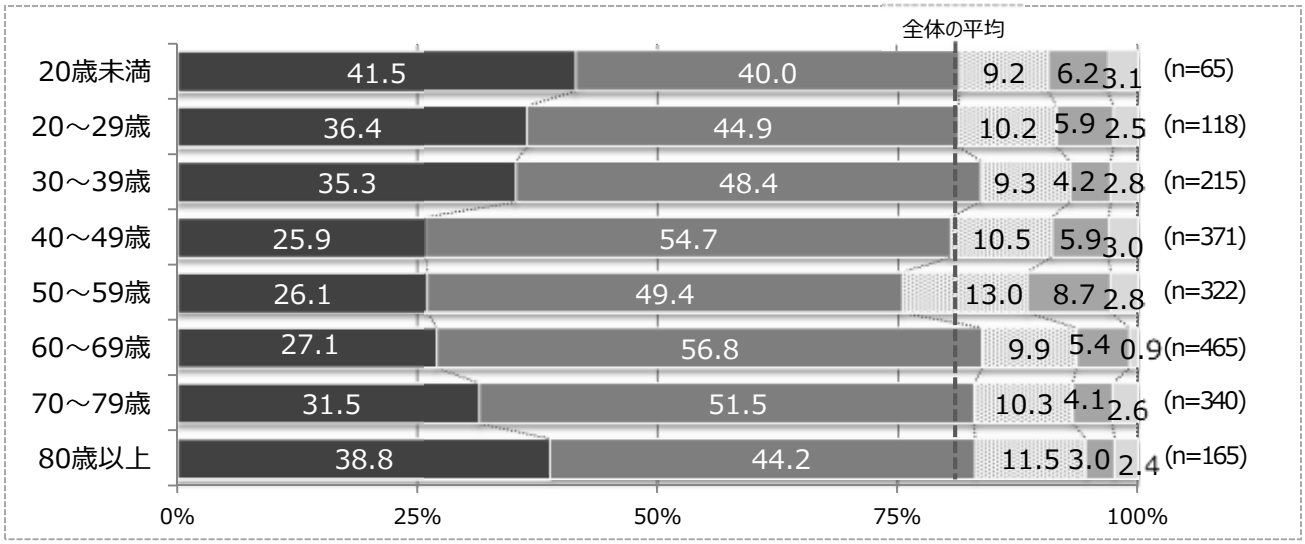
過去の調査結果と比較すると、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計（81.4%）は、平成 26 年度（78.5%）から増加する傾向がみられた。

男女別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,048



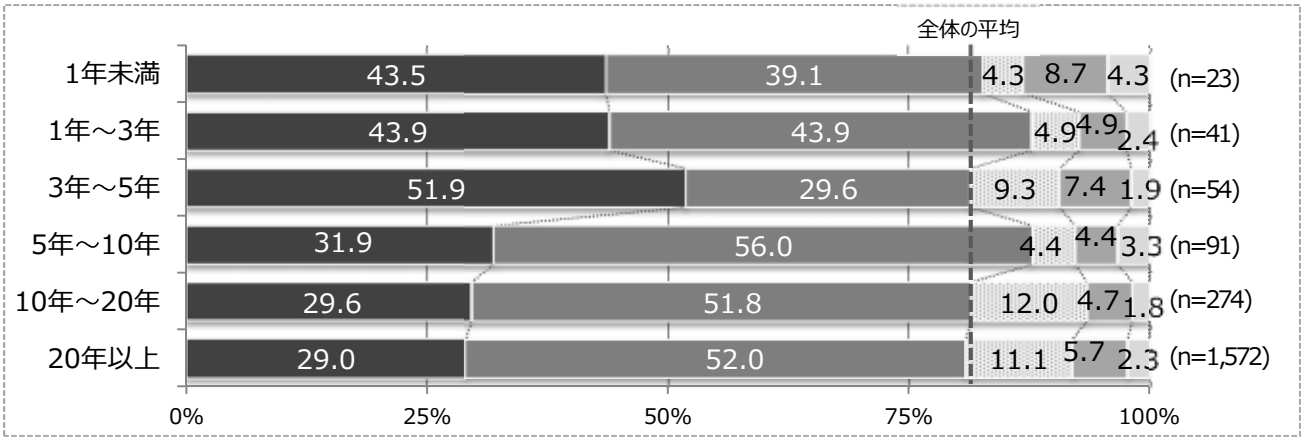
男女別に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を比較すると、「女性」(85.0%)が「男性」(77.2%)を上回った。

年齢階層別構成とのクロス集計（一般市民） n=2,061



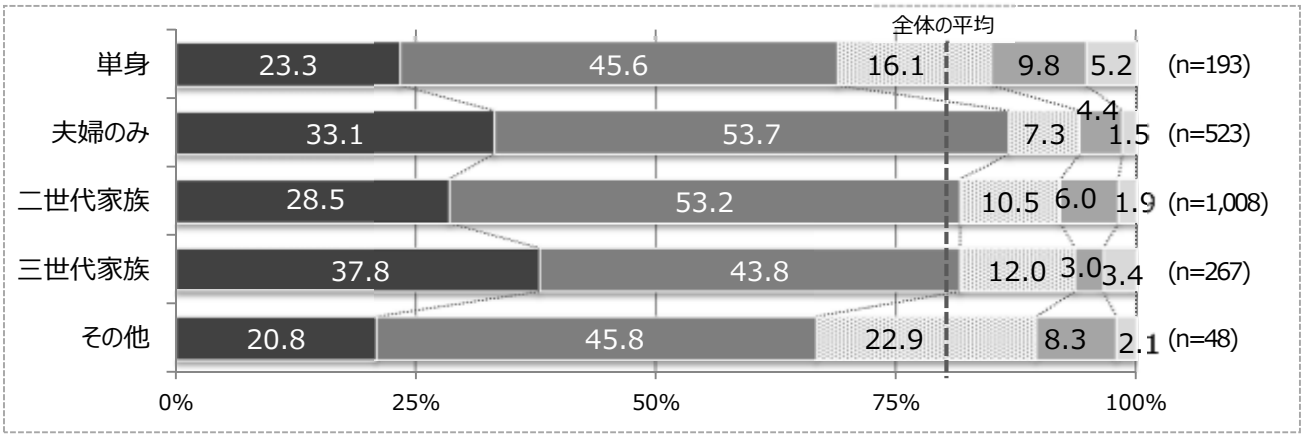
年齢階層別に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均(81.4%)と比較すると、「60～69 歳」(83.9%)、「30～39 歳」(83.7%)、「80 歳以上」(83.0%)、「70～79 歳」(83.0%)、「20 歳未満」(81.5%)が平均を上回る、または近似した値となった。一方で「50～59 歳」(75.5%)、「40～49 歳」(80.6%)、「20～29 歳」(81.3%)では平均を下回る、または近似した値となった。

居住年数別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,055



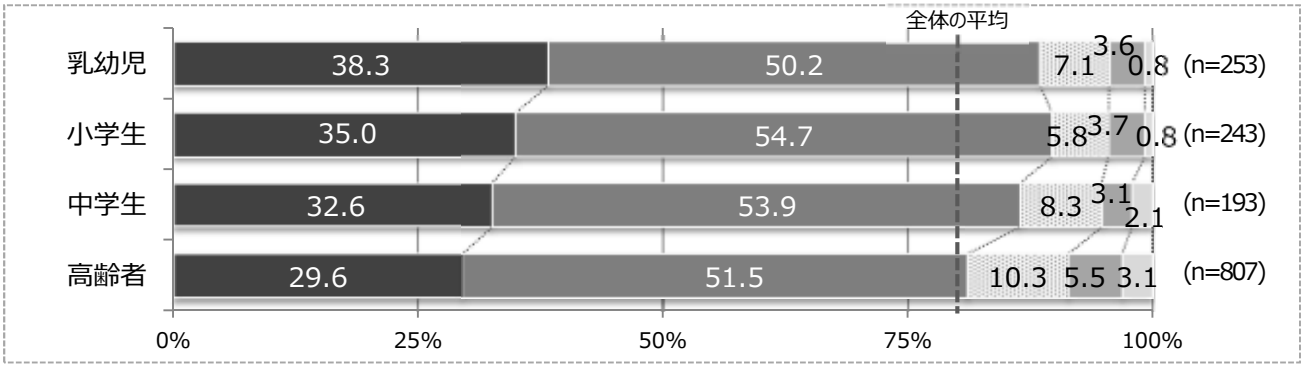
居住年数別に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「5 年以上 10 年未満」（87.9%）、「1 年以上 3 年未満」（87.8%）、「1 年未満」（82.6%）が平均を上回った。また、「3 年以上 5 年未満」（81.5%）、「20 年以上」（81.0%）では平均に近似した値となり、「10 年以上 20 年未満」（81.4%）では平均と同じ値となった。

家族構成とのクロス集計（一般市民） n=2,039



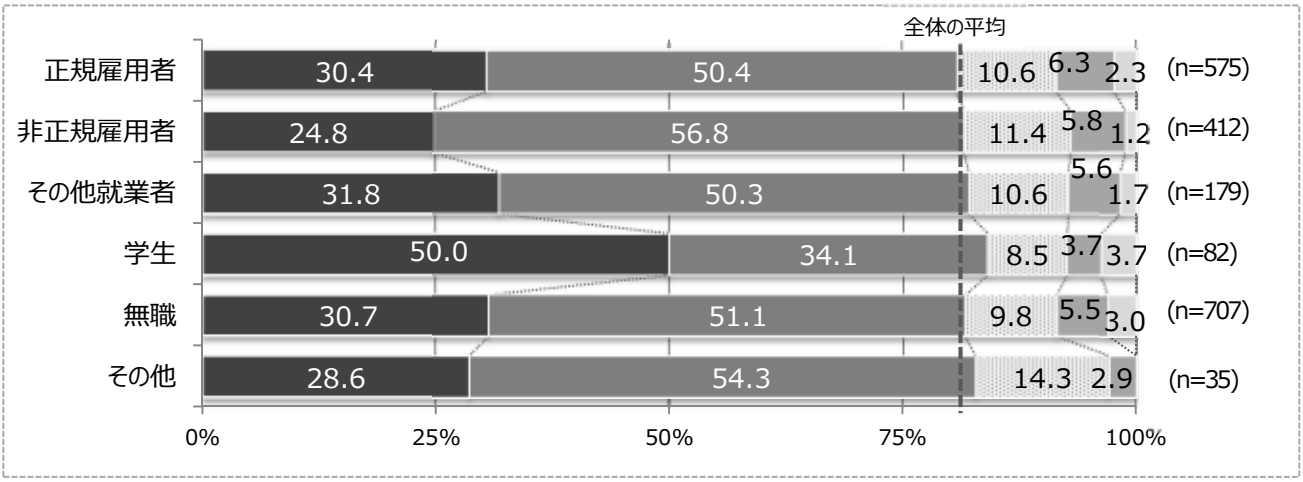
同居家族別（「その他」を除く）に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「夫婦のみ」（86.8%）、「二世代家族」（81.7%）、「三世代家族」（81.6%）が平均を上回る、または近似した値となった。一方で「単身」（68.9%）では平均を大きく下回った。

乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯とのクロス集計（一般市民）



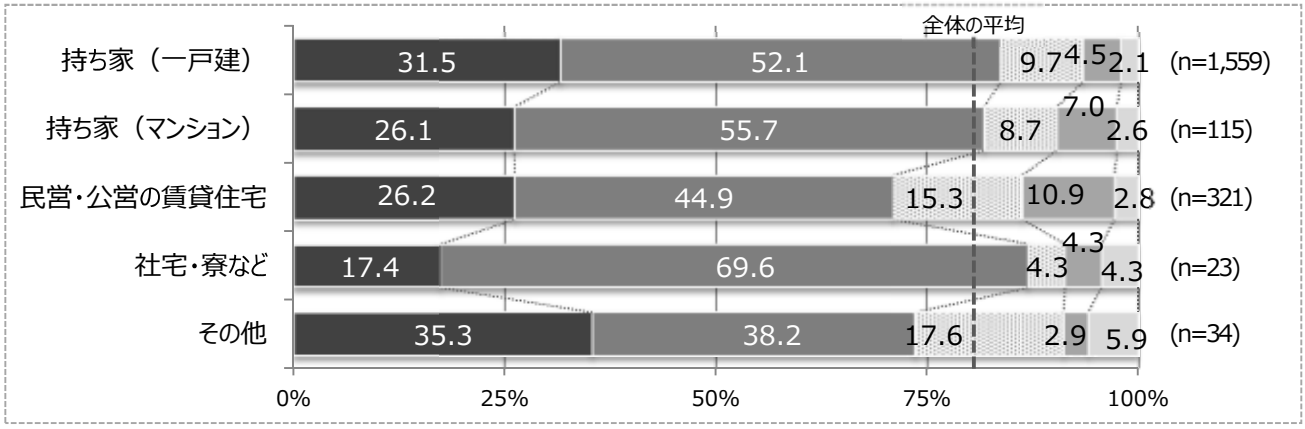
乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「乳幼児」のいる世帯（88.5%）、「小学生」のいる世帯（89.7%）、「中学生」のいる世帯（86.5%）が平均を上回り、「高齢者」のいる世帯（81.1%）では平均と近似した値となった。

職業別構成とのクロス集計（一般市民）　n=1,990



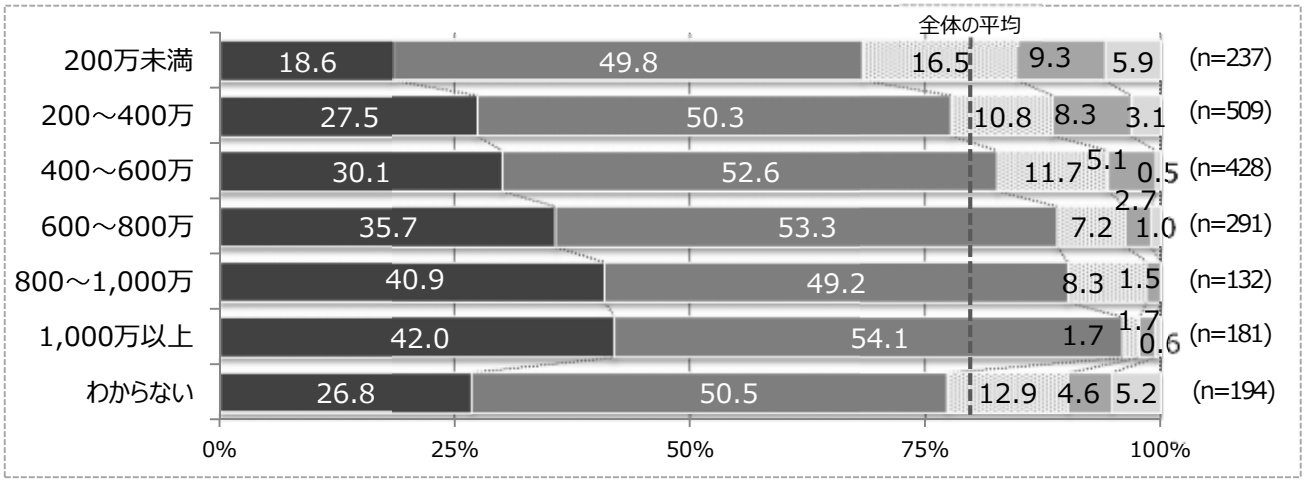
職業別（「その他」を除く。職業別構成の定義については 9 ページ参照）に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「学生」（84.1%）が平均を上回った。また、「その他就業者」（82.1%）、「無職」（81.8%）、「非正規雇用者」（81.6%）、「正規雇用者」（80.8%）では平均と近似した値となった。

住宅構成とのクロス集計（一般市民）　n=2,052



住宅別（「その他」を除く）に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「社宅・寮など」（87.0%）、「持ち家（一戸建）」（83.6%）、「持ち家（マンション）」（81.8%）が平均を上回る、または近似した値となった。一方で「民営・公営の賃貸住宅」（71.1%）では平均を大きく下回った。

世帯収入別構成とのクロス集計（一般市民）　n=1,972

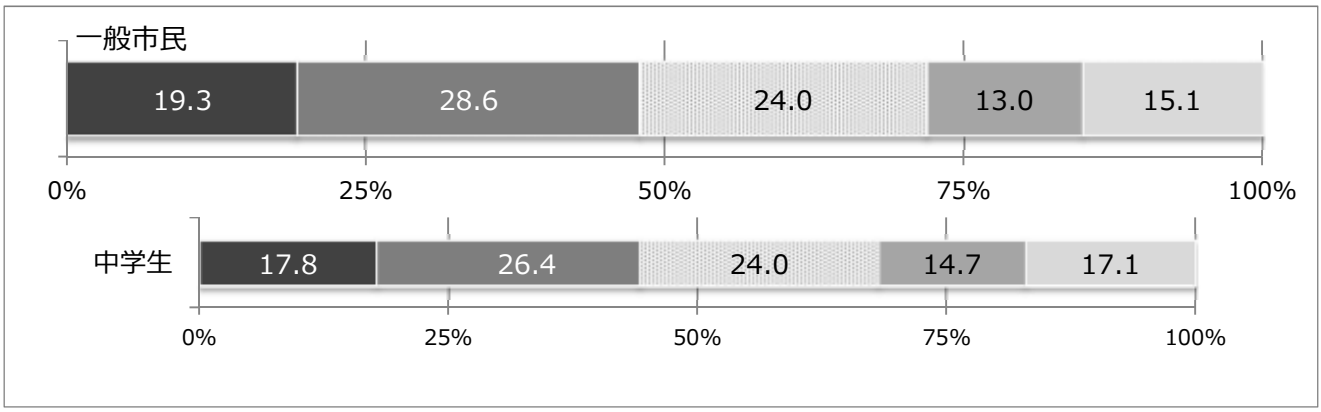


世帯収入別（「わからない」を除く）に、「幸せだと感じる」、「どちらかといえば幸せだと感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（81.4%）と比較すると、「1,000万円以上」（96.1%）が平均を大きく上回り、「800 万円以上～1,000 万円未満」（90.1%）、「600 万円以上～800 万円未満」（89.0%）、「400 万円以上～600 万円未満」（82.7%）でも平均を上回った。一方で「200 万円未満」（68.4%）では平均を大きく下回り、「200 万円以上～400 万円未満」（77.8%）でも平均を下回った。

3 岐阜市民としての誇り、岐阜市への愛着

岐阜市民であることに誇りを感じますか。

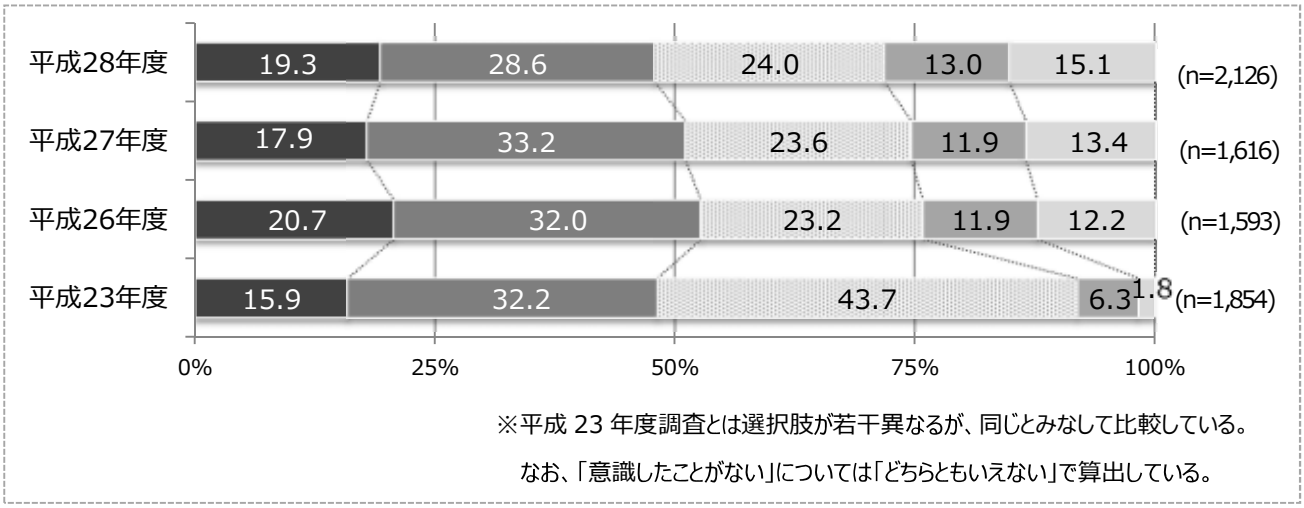
一般市民 Q31 n=2,126　中学生 Q2 n=129



岐阜市民としての誇り(一般市民)については、「感じる」(19.3%)、「どちらかといえば感じる」(28.6%)と回答した割合の合計が 47.9%となった。一方で「感じない」(15.1%)、「どちらかといえば感じない」(13.0%)と回答した割合の合計は 28.1%となった。

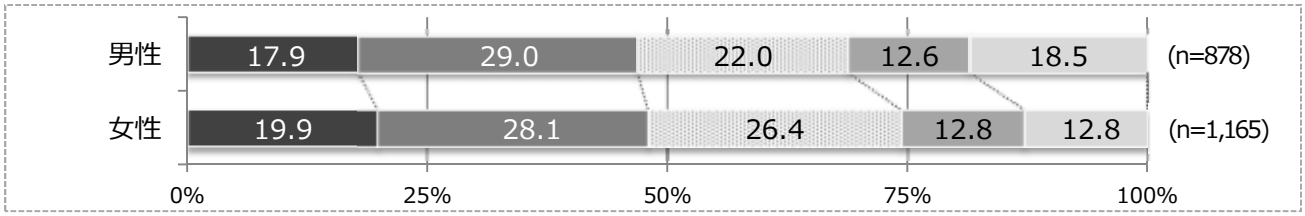
また、調査対象別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を比較すると、「中学生」(44.2%)が「一般市民」(47.9%)を下回った。

平成 23 年度、平成 26 年度、平成 27 年度調査結果との比較（一般市民）



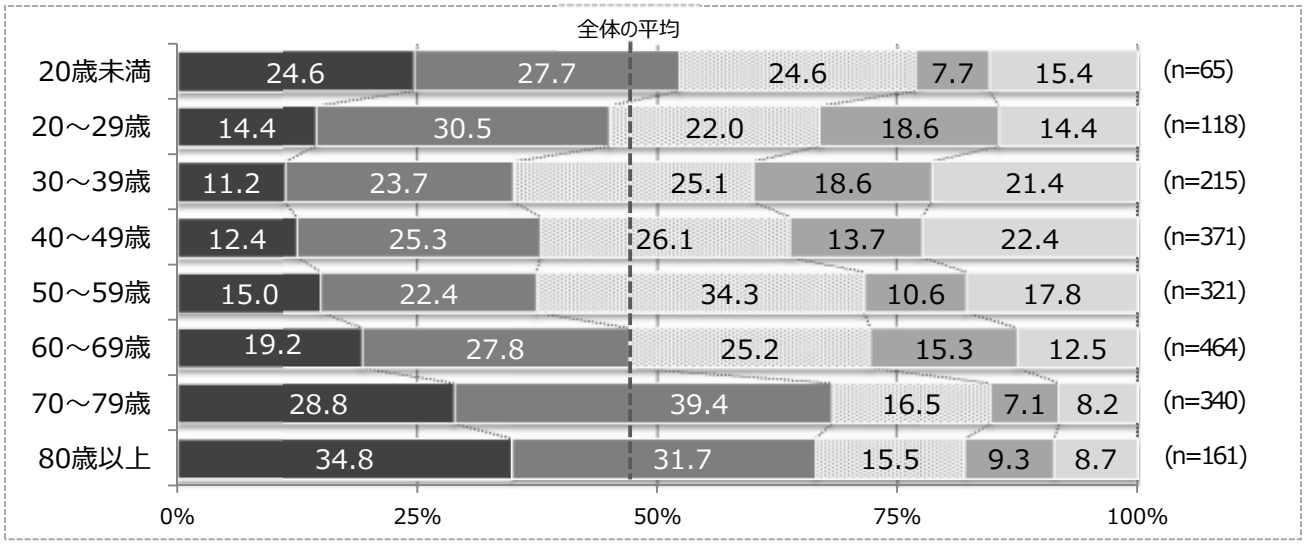
過去の調査結果と比較すると、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は、平成 23 年度(48.1%)と比較して、平成 26 年度(52.7%)は増加していたが、平成 27 年度(51.1%)、平成 28 年度(47.9%)と減少する傾向がみられた。

男女別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,043



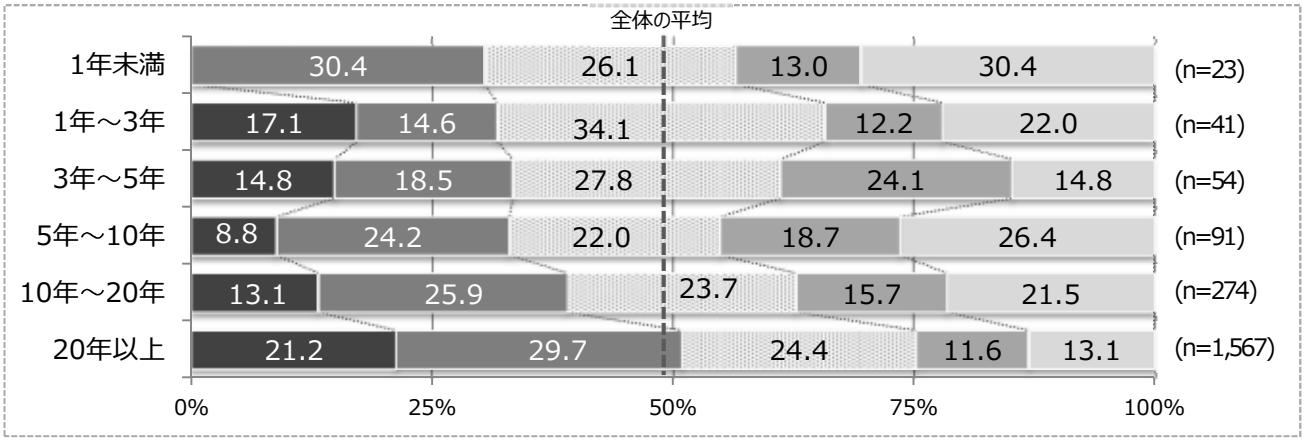
男女別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を比較すると、「女性」(48.0%)が「男性」(46.9%)を上回った。

年齢階層別構成とのクロス集計（一般市民） n=2,055



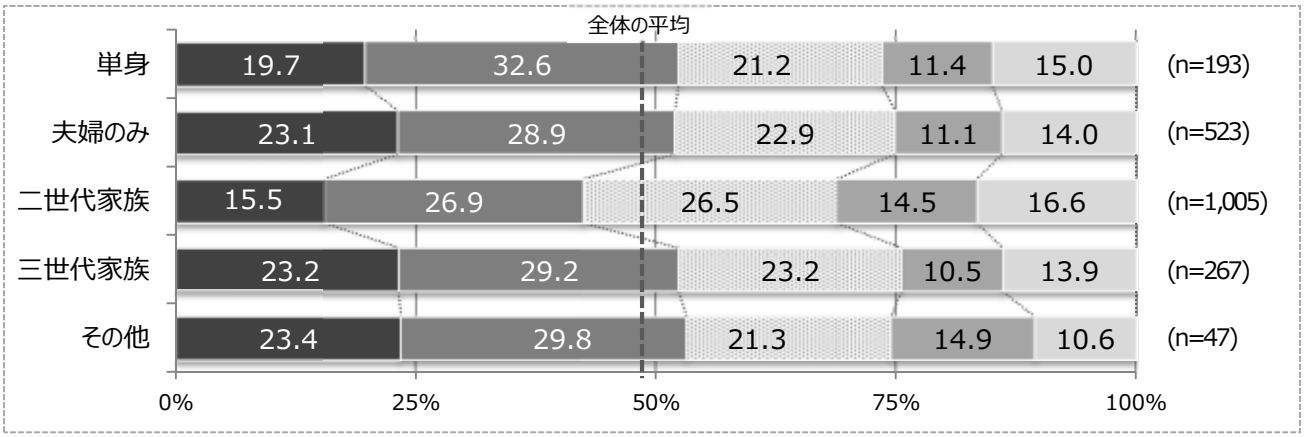
年齢階層別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均(47.9%)と比較すると、「70～79 歳」(68.2%)、「80 歳以上」(66.5%)が平均を大きく上回り、「20 歳未満」(52.3%)でも平均を上回った。一方で「30～39 歳」(34.9%)、「50～59 歳」(37.4%)、「40～49 歳」(37.7%)では平均を大きく下回り、「20～29 歳」(44.9%)、「60～69 歳」(47.0%)でも平均を下回る、または近似した値となった。

居住年数別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,050



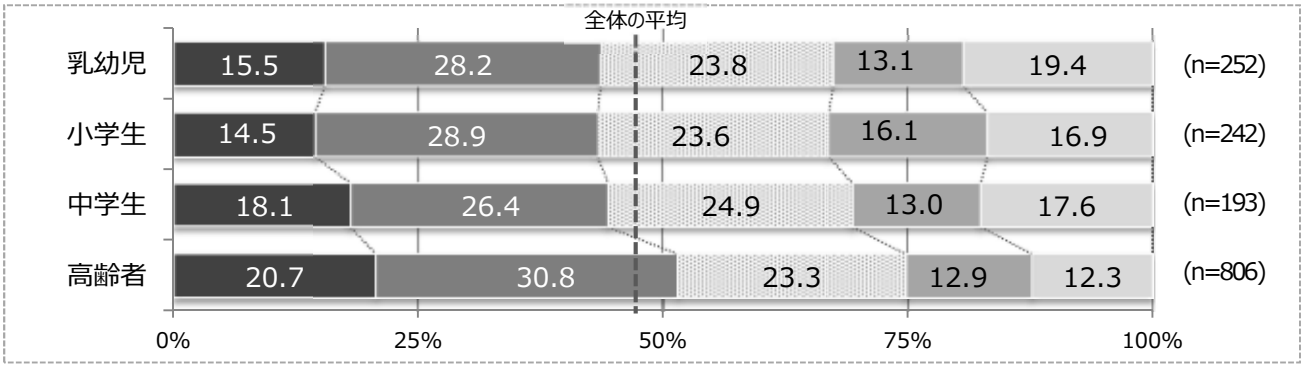
居住年数別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均(47.9%)と比較すると、「20 年以上」(50.9%)が平均を上回った。一方で「1 年未満」(30.4%)、「1 年以上 3 年未満」(31.7%)、「5 年以上 10 年未満」(33.0%)、「3 年以上 5 年未満」(33.3%)、「10 年以上 20 年未満」(39.0%)では平均を大きく下回った。

家族構成とのクロス集計（一般市民） n=2,035



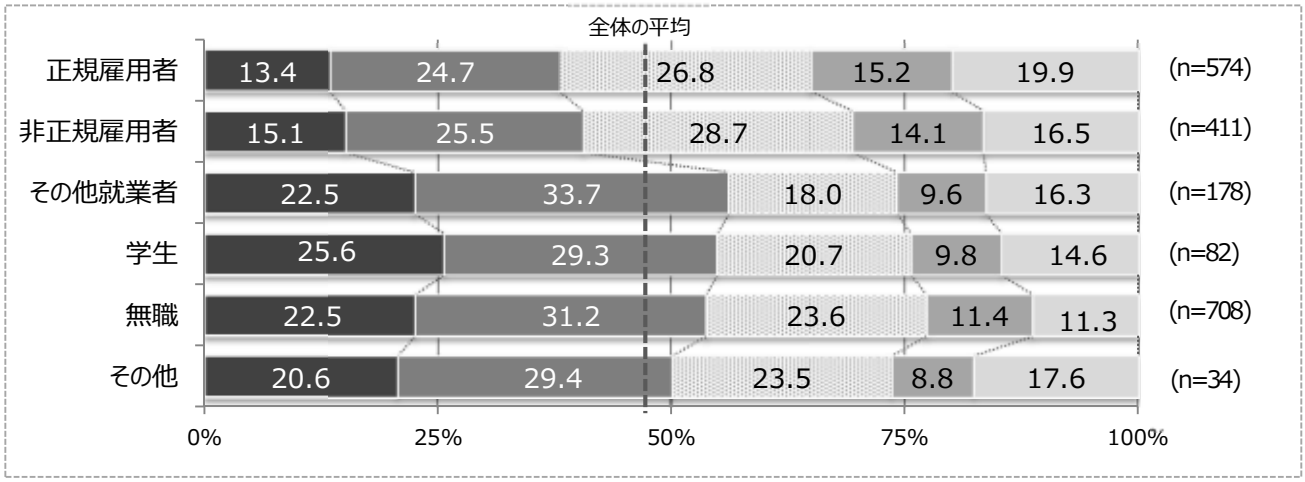
同居家族別(「その他」を除く)に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均(47.9%)と比較すると、「三世代家族」(52.4%)、「単身」(52.3%)、「夫婦のみ」(52.0%)が平均を上回った。一方で「二世代家族」(42.4%)では平均を下回った。

乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯とのクロス集計（一般市民）



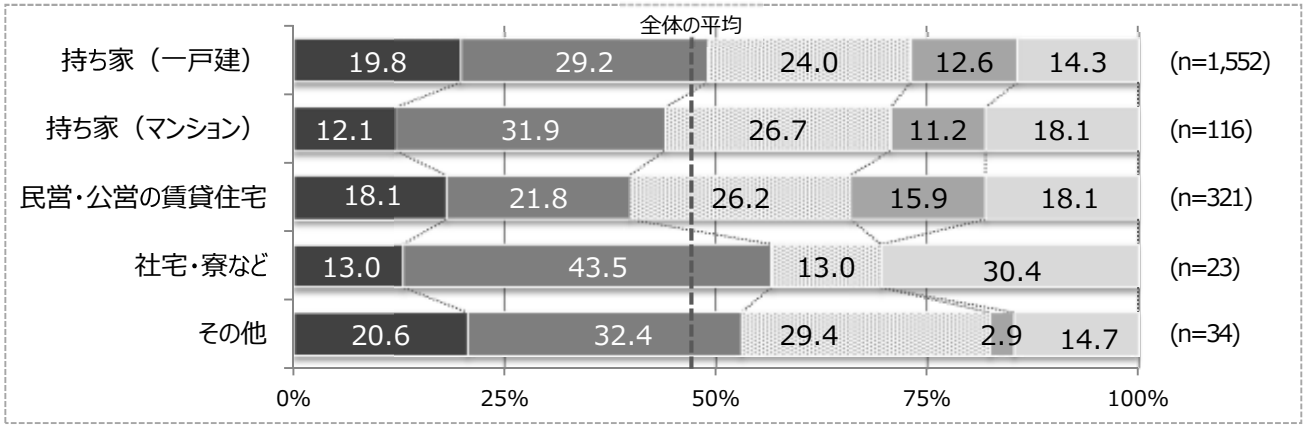
乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（47.9%）と比較すると、「高齢者」のいる世帯（51.5%）が平均を上回った。一方で「小学生」のいる世帯（43.4%）、「乳幼児」のいる世帯（43.7%）、「中学生」のいる世帯（44.5%）では平均を下回った。

職業別構成とのクロス集計（一般市民）　n= 1 ,987



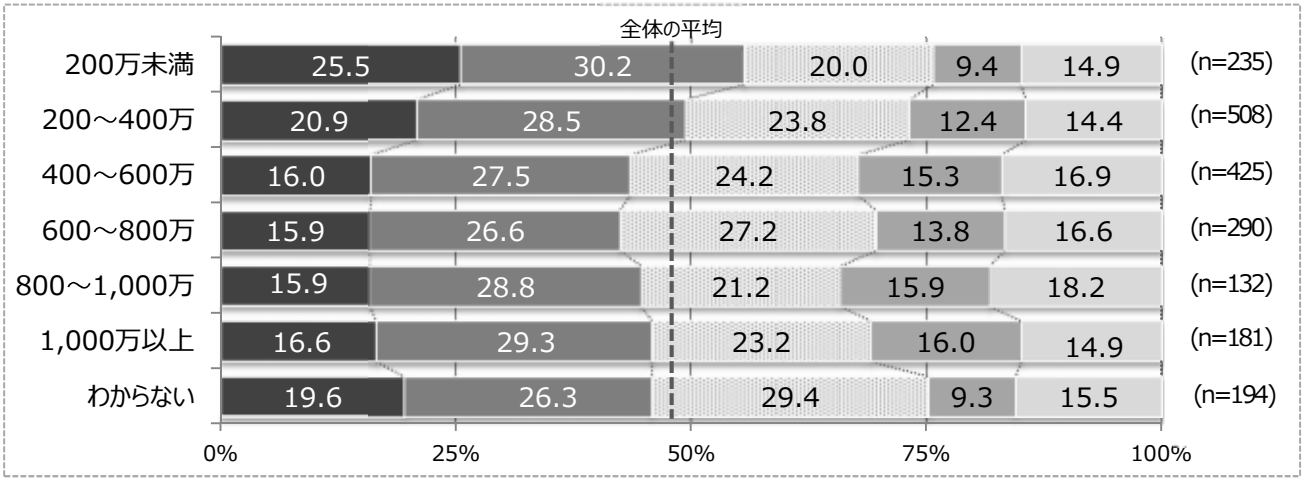
職業別（「その他」を除く。職業別構成の定義については 9 ページ参照）に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（47.9%）と比較すると、「その他就業者」（56.2%）、「学生」（54.9%）、「無職」（53.7%）が平均を上回った。一方で「正規雇用者」（38.1%）、「非正規雇用者」（40.6%）では平均を下回った。

住宅構成とのクロス集計（一般市民）　n=2,046



住宅別（「その他」を除く）に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（47.9%）と比較すると、「社宅・寮など」（56.5%）、「持ち家（一戸建）」（49.0%）が平均を上回った。一方で「民営・公営の賃貸住宅」（39.9%）、「持ち家（マンション）」（44.0%）では平均を下回った。

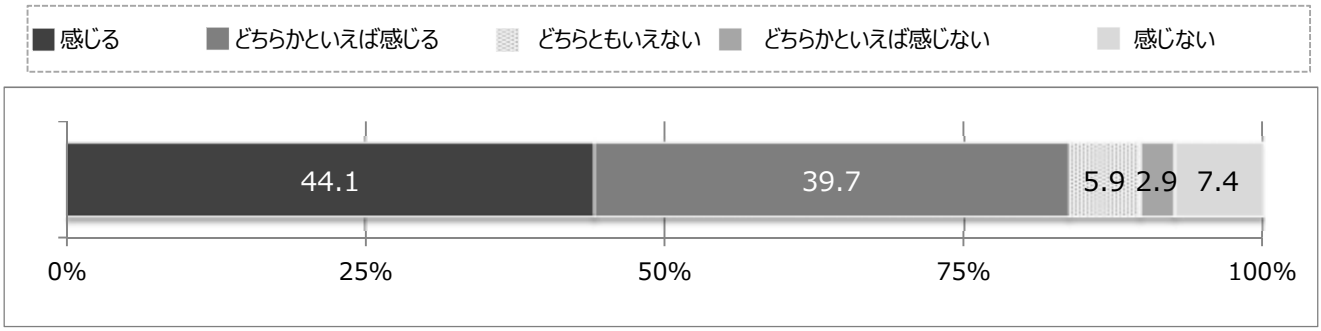
世帯収入別構成とのクロス集計（一般市民）　n=1,965



世帯収入別（「わからない」を除く）に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を全体の平均（47.9%）と比較すると、「200万円未満」（55.7%）、「200万円以上～400万円未満」（49.4%）が平均を上回った。一方で「600 万円以上～800 万円未満」（42.5%）、「400 万円以上～600万円未満」（43.5%）、「800万円以上～1,000万円未満」（44.7%）、「1,000万円以上」（45.9%）では平均を下回った。

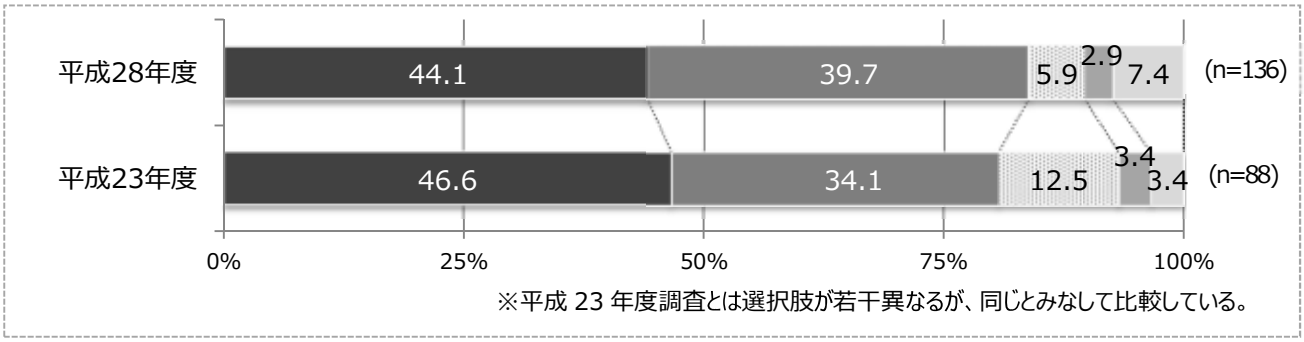
岐阜市に対して愛着などを感じますか。

転出者
Q2
n=136



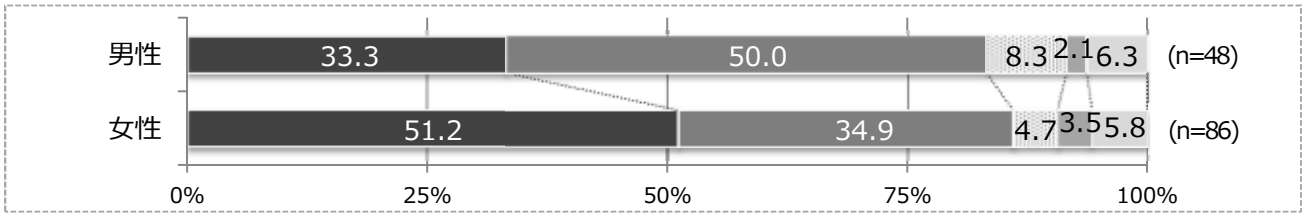
岐阜市への愛着（転出者）については、「感じる」（44.1%）、「どちらかといえば感じる」（39.7%）と回答した割合の合計が 83.8%となった。一方で「感じない」（7.4%）、「どちらかといえば感じない」（2.9%）と回答した割合の合計は 10.3%となった。

平成 23 年度との比較



過去の調査結果と比較すると、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は、平成 23 年度（80.7%）と比較して 83.8%と増加した。

男女別構成とのクロス集計 n=134

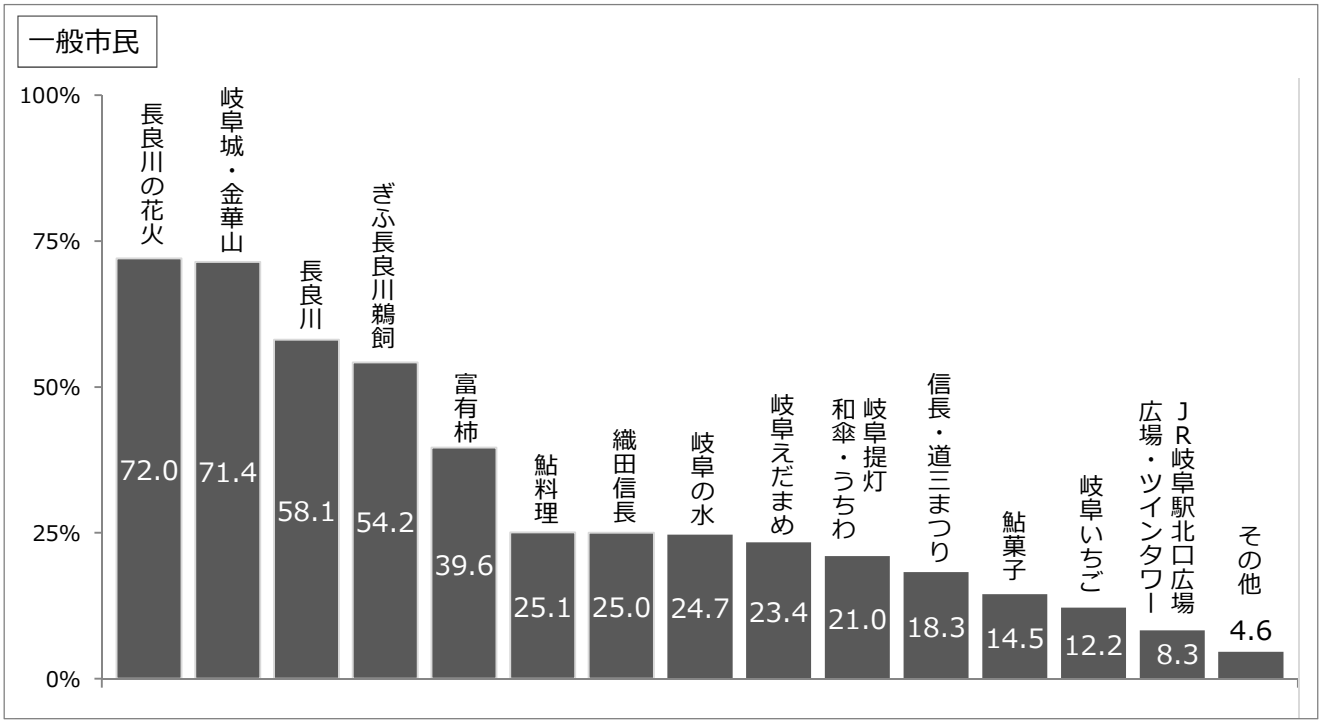


男女別に、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計を比較すると、「女性」（86.1%）が「男性」（83.3%）を上回った。

4 岐阜市の魅力

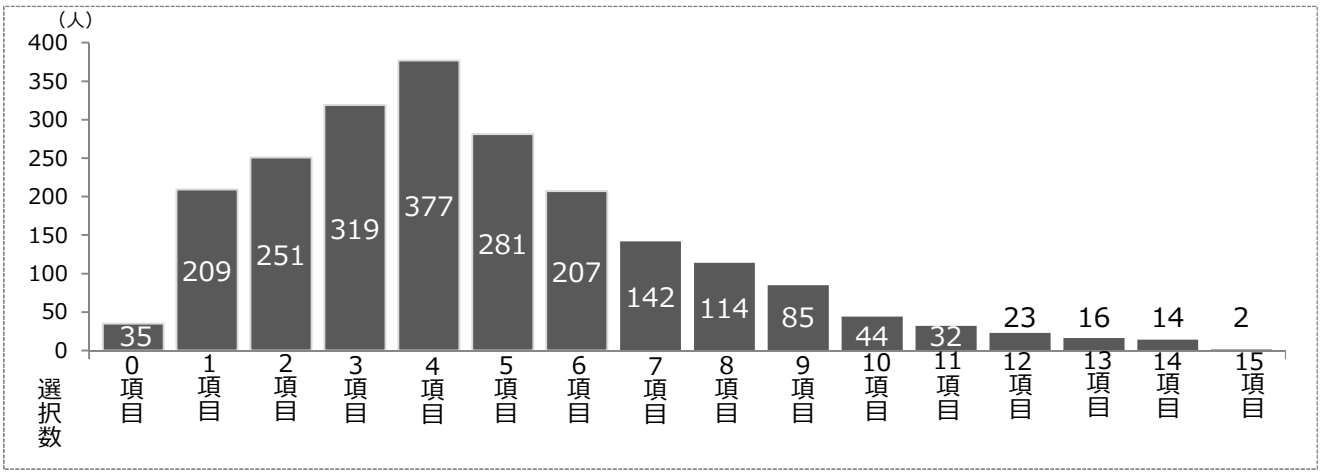
岐阜市の魅力は何ですか。（複数選択可）

一般市民	外国人市民	転出者	中学生
Q30 n=2,116	Q2 n=91	Q3 n=136	Q3 n=130

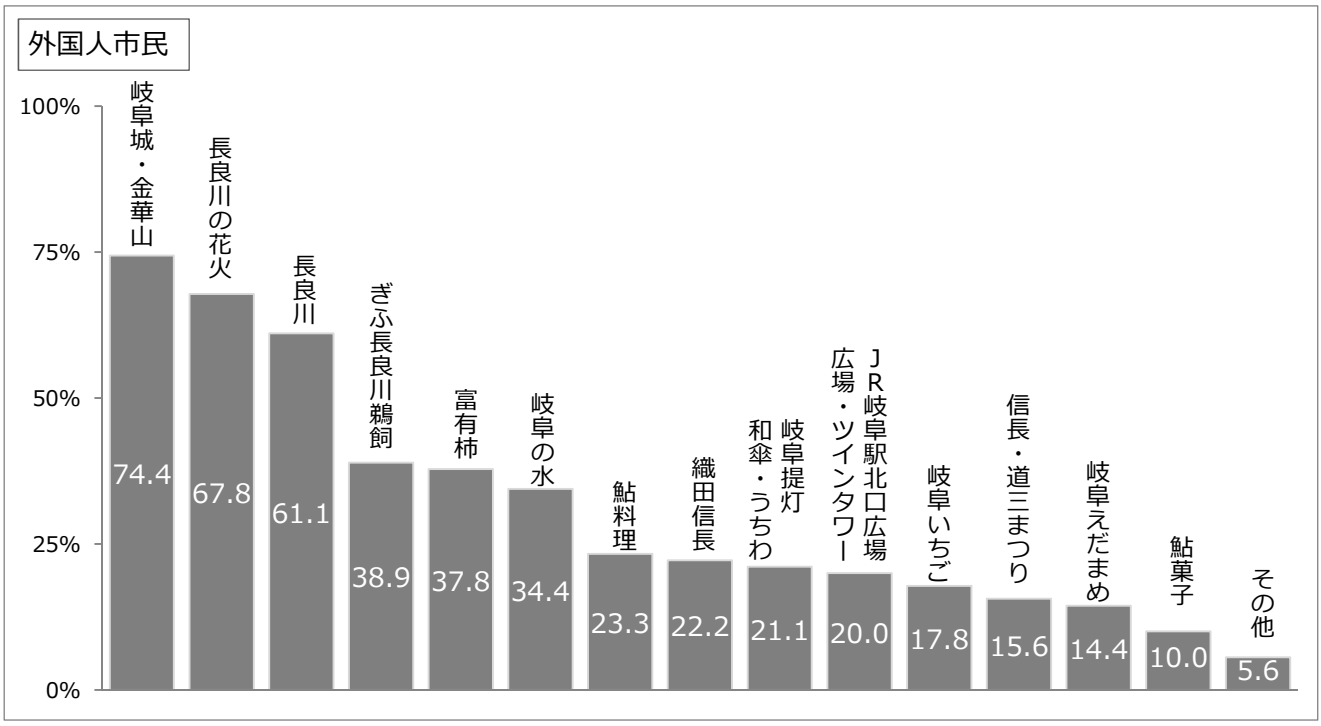


岐阜市の魅力の 14 項目（「その他」を除く）のうち、選択された割合が最も高かったものは「長良川の花火」（72.0%）となり、次いで、「岐阜城・金華山」（71.4%）、「長良川」（58.1%）、「ぎふ長良川鵜飼」（54.2%）、「富有柿」（39.6%）が続いた。

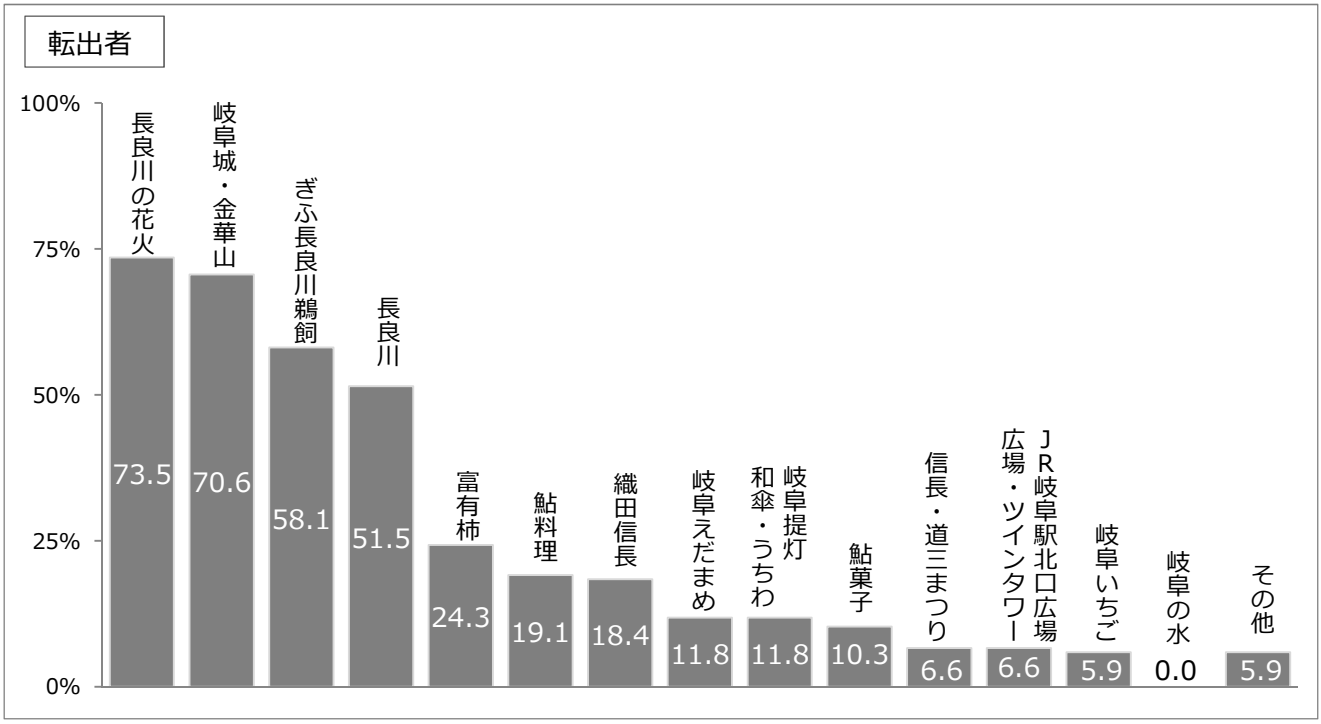
魅力項目の選択数（一般市民） n=2,151



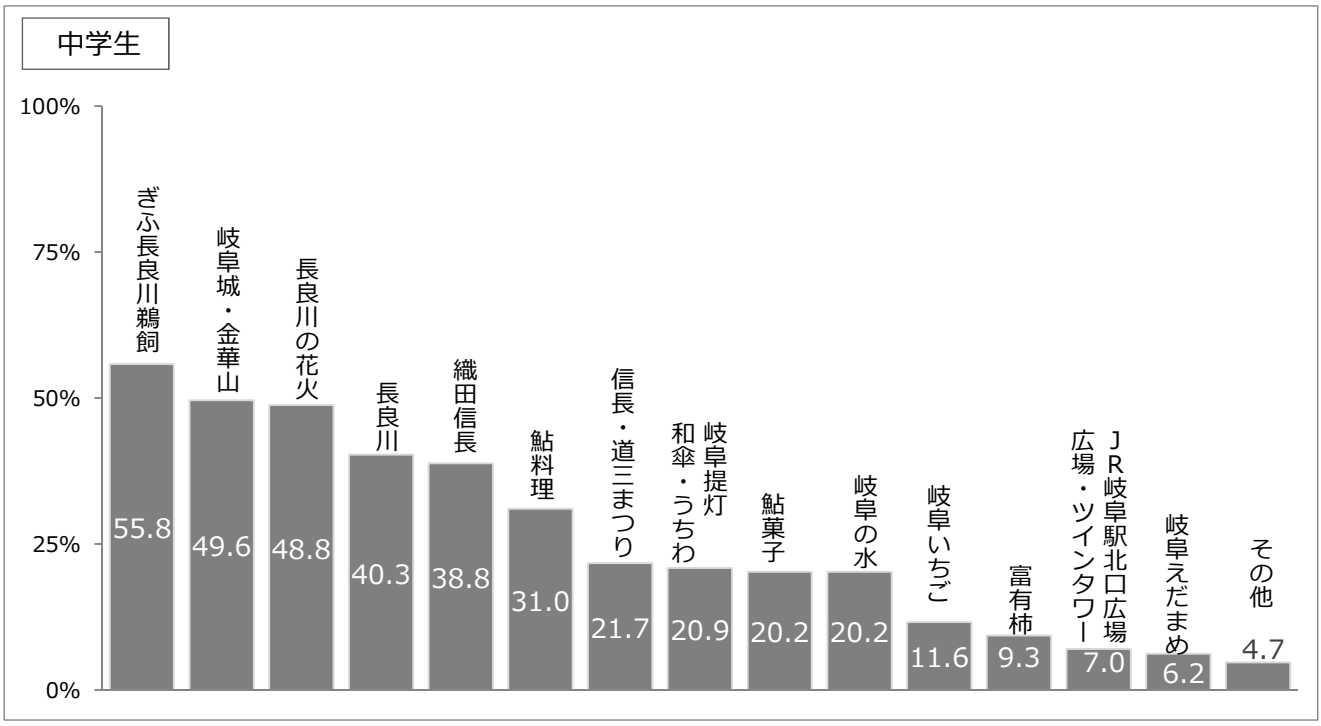
選択項目数をみると、「4 項目」（377 人）が最も多く、次いで「3 項目」（319 人）、「5 項目」（281 人）、「2 項目」（251 人）となった。



外国人市民をみると、岐阜市の魅力の 14 項目(「その他」を除く)のうち、選択された割合が最も高かったものは「岐阜城・金華山」(74.4%)となり、次いで、「長良川の花火」(67.8%)、「長良川」(61.1%)、「ぎふ長良川鵜飼」(38.9%)、「富有柿」(37.8%)が続いた。

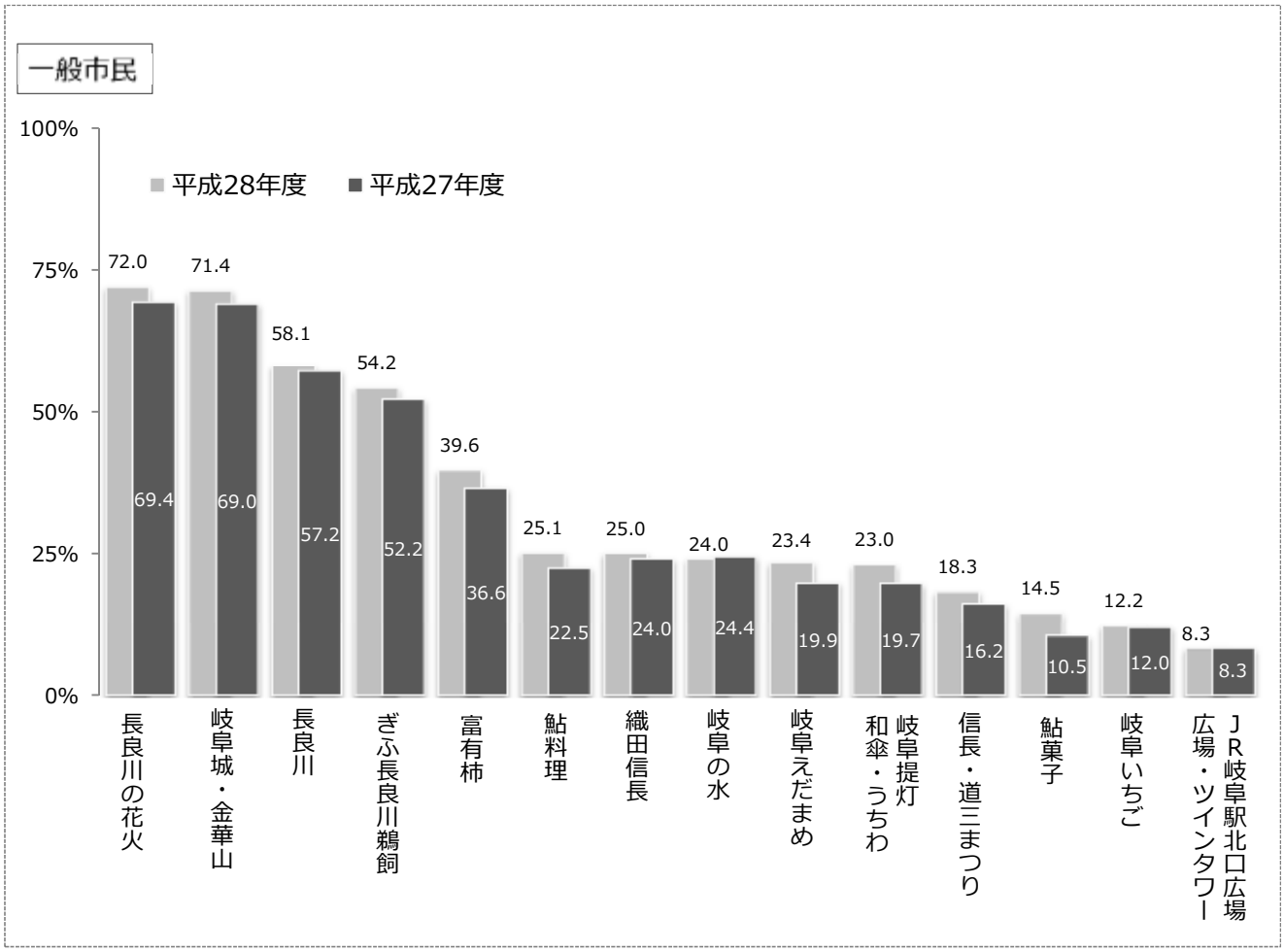


転出者をみると、岐阜市の魅力の 14 項目(「その他」を除く)のうち、選択された割合が最も高かったものは「長良川の花火」(73.5%)となり、次いで、「岐阜城・金華山」(70.6%)、「ぎふ長良川鵜飼」(58.1%)、「長良川」(51.5%)、「富有柿」(24.3%)が続いた。



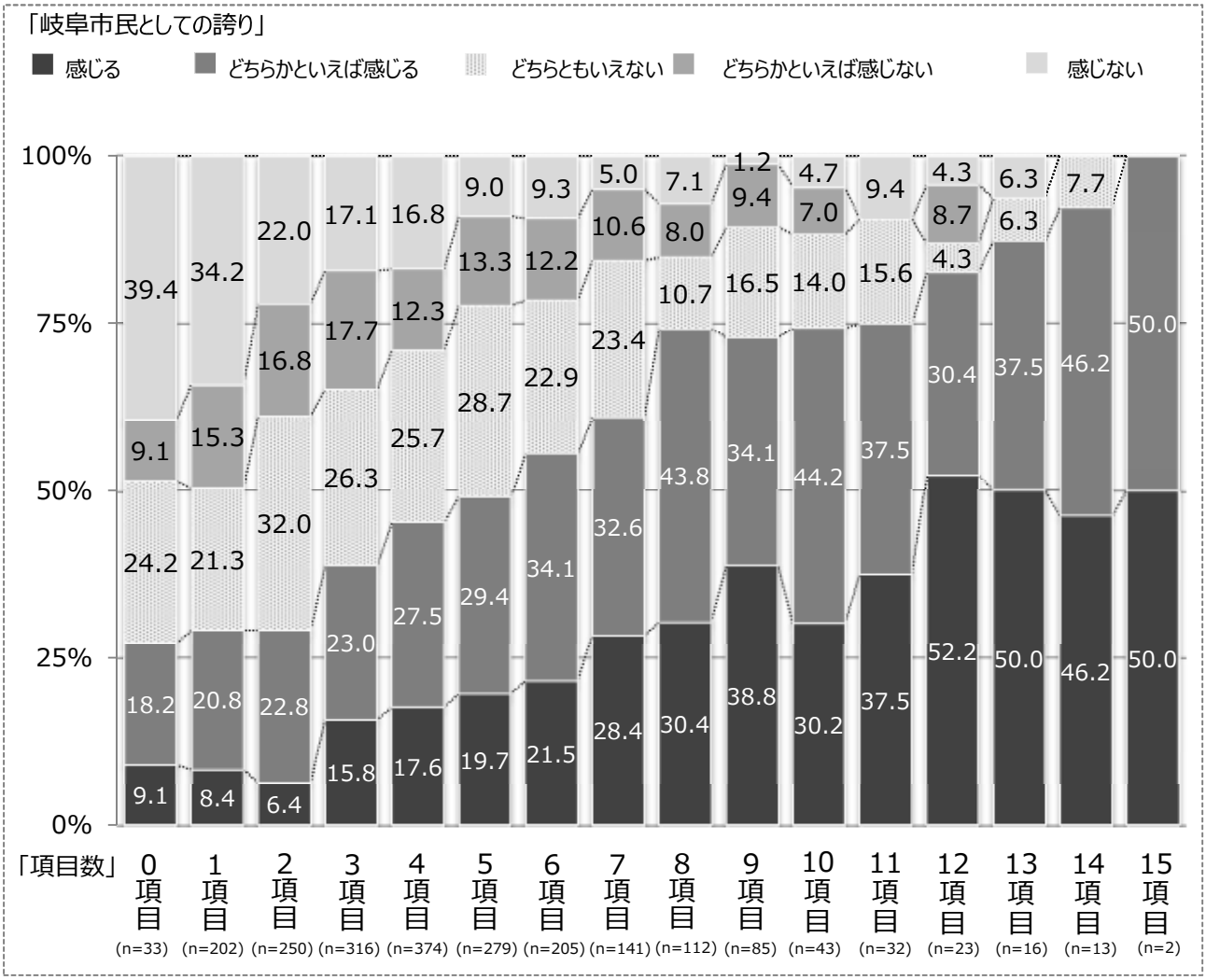
中学生をみると、岐阜市の魅力の 14 項目（「その他」を除く）のうち、選択された割合が最も高かったものは「ぎふ長良川鵜飼」（55.8%）となり、次いで、「岐阜城・金華山」（49.6%）、「長良川の花火」（48.8%）、「長良川」（40.3%）、「織田信長」（38.8%）が続いた。

平成 27 年度調査結果との比較（一般市民）



平成 27 年度調査結果と比較すると、最も選択した割合が増加した岐阜市の魅力は、「鮎菓子」(4.0 ポイント増(「H27」(10.5%)→「H28」(14.50%))となり、次いで、「岐阜えだまめ」(3.5 ポイント増(「H27」(19.9%)→「H28」(23.4%))が続いた。また、岐阜市の魅力の 14 項目(「その他」を除く)のうち、12 項目において、選択した割合が増加した。

「岐阜市民としての誇り」（設問３１）とのクロス集計（一般市民）　n=2,126

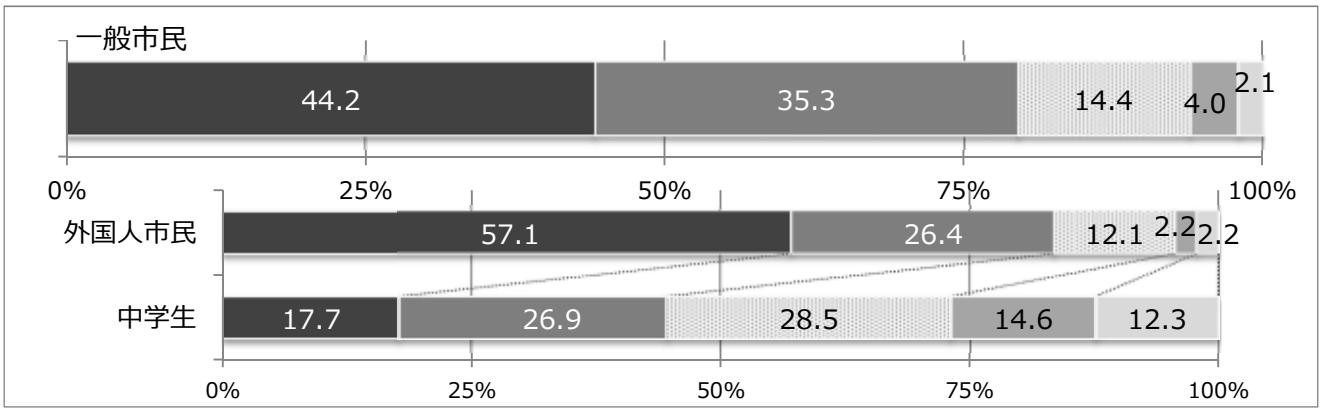


魅力の項目を選択しなかった人の中で、岐阜市民としての誇りを「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は 27.3%となった。一方で、魅力の項目を「15 項目」選択した人の中で、岐阜市民としての誇りを「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は 100%と高くなっていることなどから、魅力の選択項目数が増えるほど、岐阜市民としての誇りを感じている割合が高くなる概ねの傾向がみられた。

5 定住（定住意向、住みやすさ）

このまちに住み続けたいと思いますか。

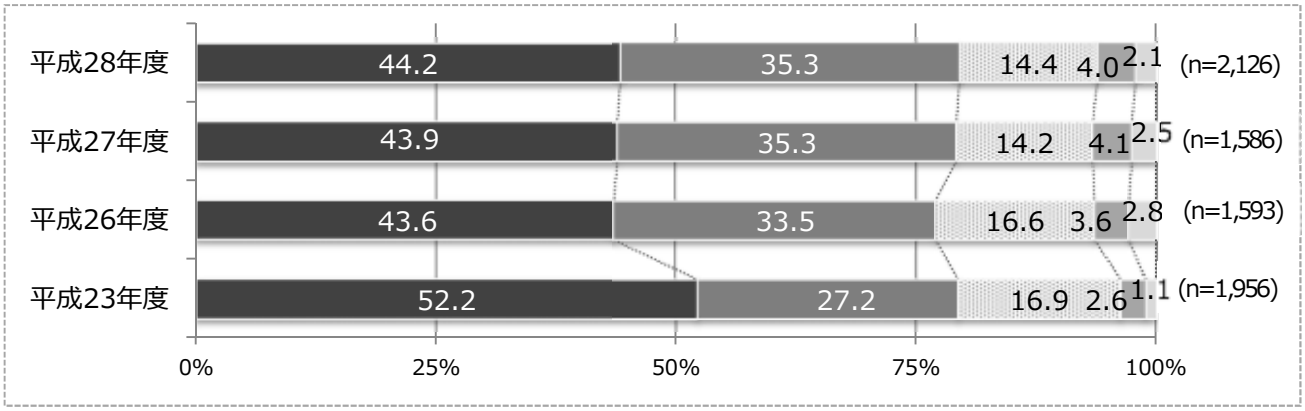
一般市民	外国人市民	中学生
Q63 n=2,126	Q3 n=91	Q5 n=130



岐阜市民としての誇り（一般市民）については、「住み続けたい」（44.2%）、「どちらかといえば住み続けたい」（35.3%）と回答した割合の合計が 79.5%となった。一方で「住み続けたくない」（2.1%）、「どちらかといえば住み続けたくない」（4.0%）と回答した割合の合計は 6.1%となった。

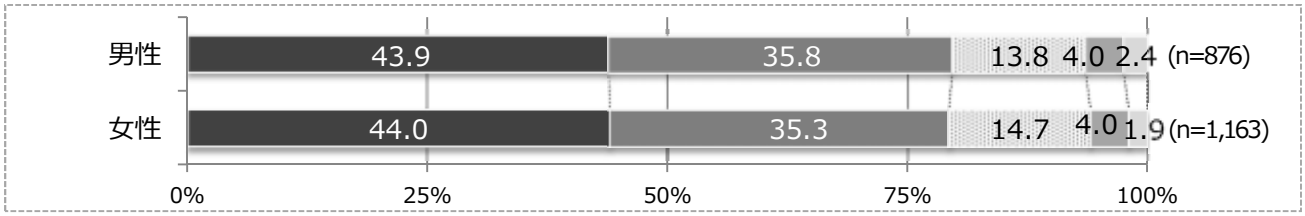
また、調査対象別に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を比較すると、「外国人市民」（83.5%）が「一般市民」（79.5%）を上回った。一方で「中学生」（44.6%）では「一般市民」（79.5%）を大きく下回った。

平成 23 年度、平成 26 年度、平成 27 年度調査結果との比較（一般市民）



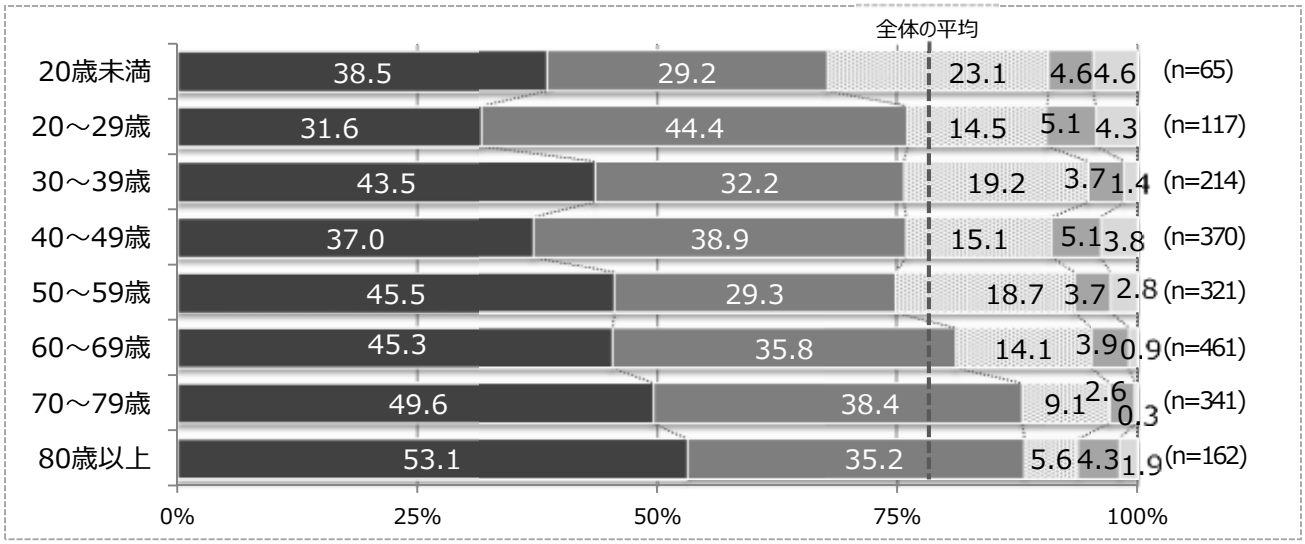
過去の調査結果と比較すると、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計は、平成 23 年度（79.4%）と比較して、平成 27 年度(79.2%)、平成 28 年度（79.5%）はほぼ同程度で推移する傾向が見られた。

男女別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,039



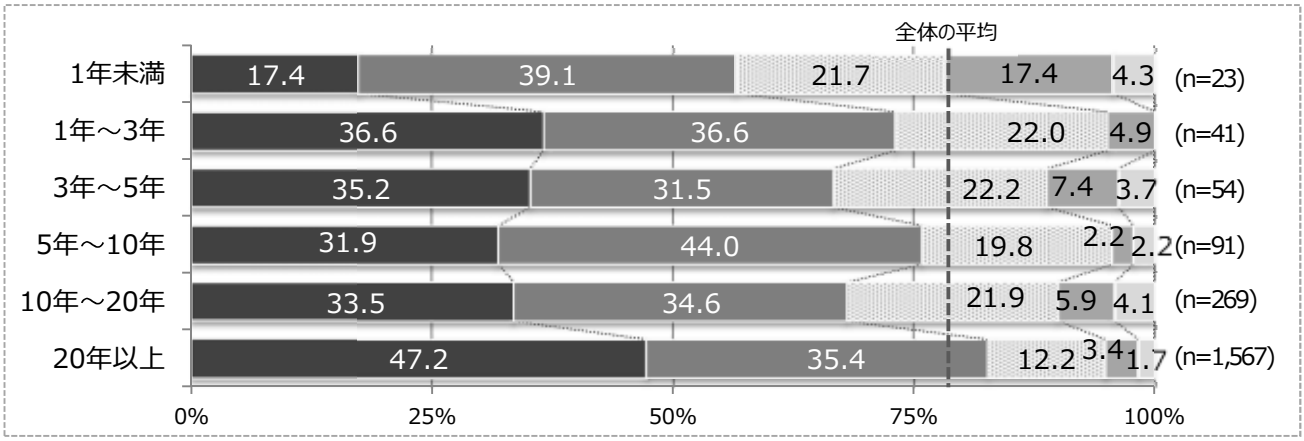
男女別に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を比較すると、「男性」(79.7%)と「女性」(79.3%)は近似した値となった。

年齢階層別構成とのクロス集計（一般市民） n=2,051



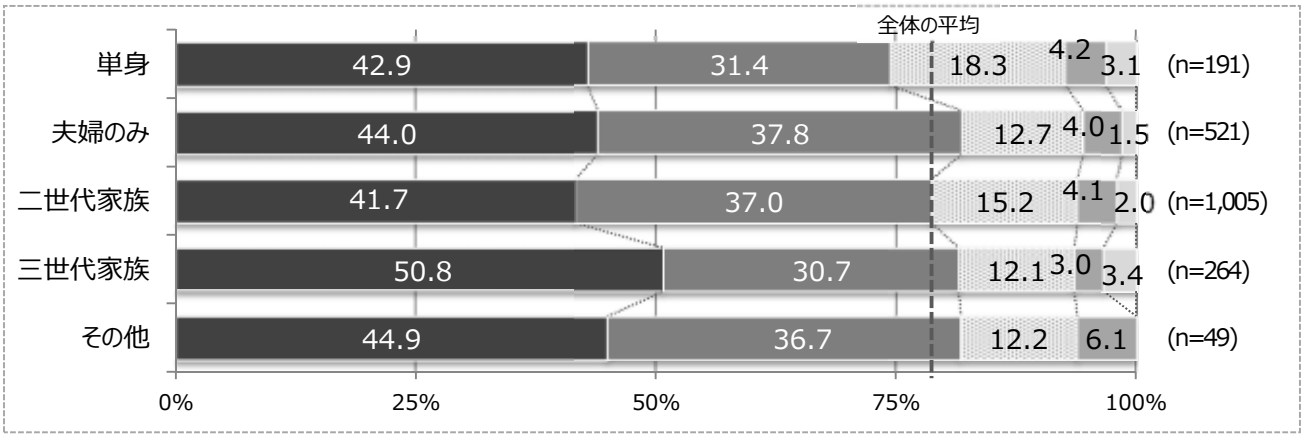
年齢階層別に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均(79.5%)と比較すると、「70～79 歳」(88.0%)、「80 歳以上」(88.3%)、「60～69 歳」(81.1%)が平均を上回った。一方で「20 歳未満」(67.7%)では平均を大きく下回り、「50～59 歳」(74.8%)、「30～39 歳」(75.7%)、「40～49 歳」(75.9%)、「20～29 歳」(76.0%)でも平均を下回った。

居住年数別構成とのクロス集計（一般市民）n=2,045



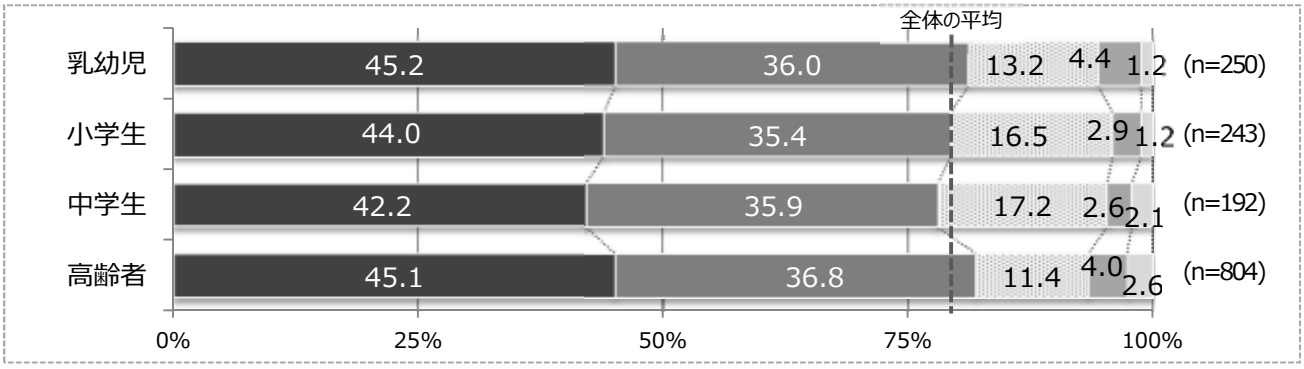
居住年数別に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「20 年以上」（82.6%）が平均を上回った。一方で「1 年未満」（56.5%）では平均を大きく下回り、「3 年以上 5 年未満」（66.7%）、「10 年以上 20 年未満」（68.1%）、「1 年以上 3 年未満」（73.2%）、「5 年以上 10 年未満」（75.9%）でも平均を下回った。

家族構成とのクロス集計（一般市民） n=2,030



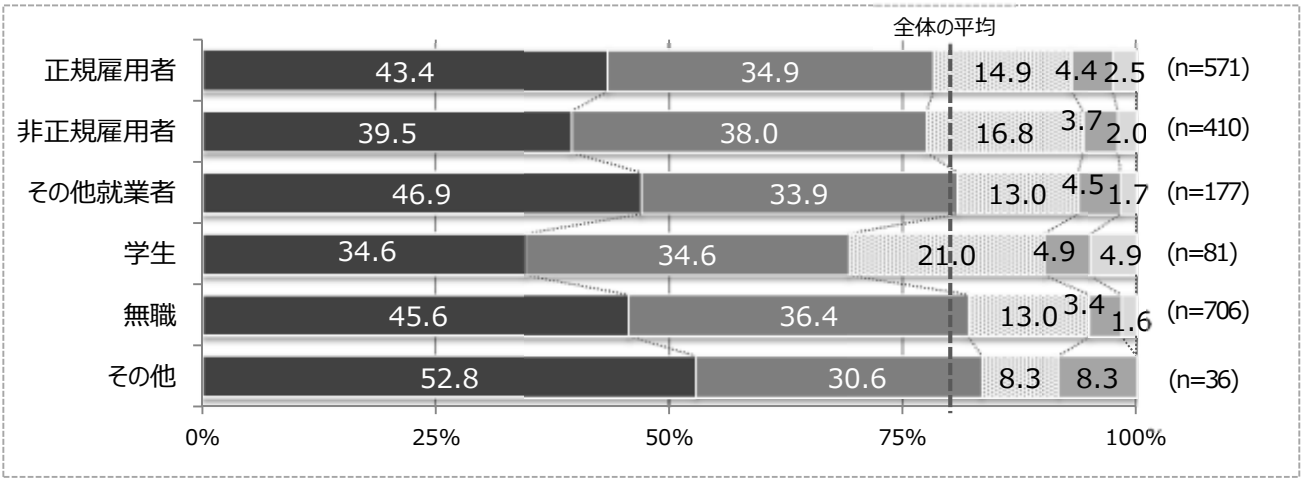
同居家族別（「その他」を除く）に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「夫婦のみ」（81.8%）、「三世代家族」（81.5%）が平均を上回った。一方で「単身」（74.3%）、「二世代家族」（78.7%）では平均を下回る、または近似した値となった。

乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯とのクロス集計（一般市民）



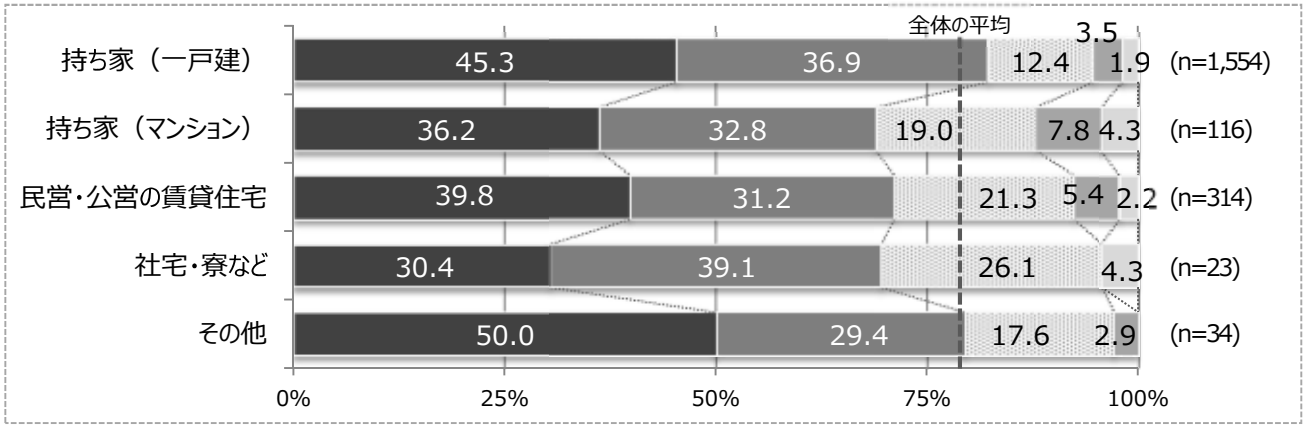
乳幼児、小学生、中学生、高齢者のいる世帯別に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「高齢者」のいる世帯（81.9%）、「乳幼児」のいる世帯（81.2%）が平均を上回った。一方で「中学生」のいる世帯（78.1%）、「小学生」のいる世帯（79.4%）では平均を下回る、または近似した値となった。

職業別構成とのクロス集計（一般市民）　n= 1 ,981



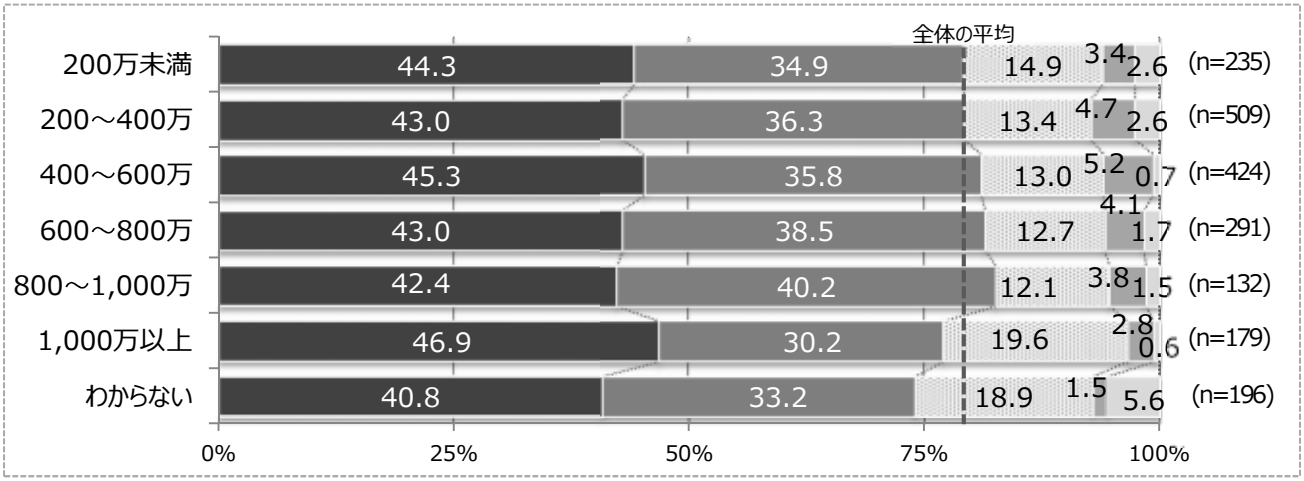
職業別（「その他」を除く。職業別構成の定義については 9 ページ参照）に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「無職」（82.0%）、「その他就業者」（80.8%）が平均を上回った。一方で「学生」（69.2%）では平均を大きく下回り、「非正規雇用者」（77.5%）、「正規雇用者」（78.3%）でも平均を下回った。

住宅構成とのクロス集計（一般市民）　n=2,041



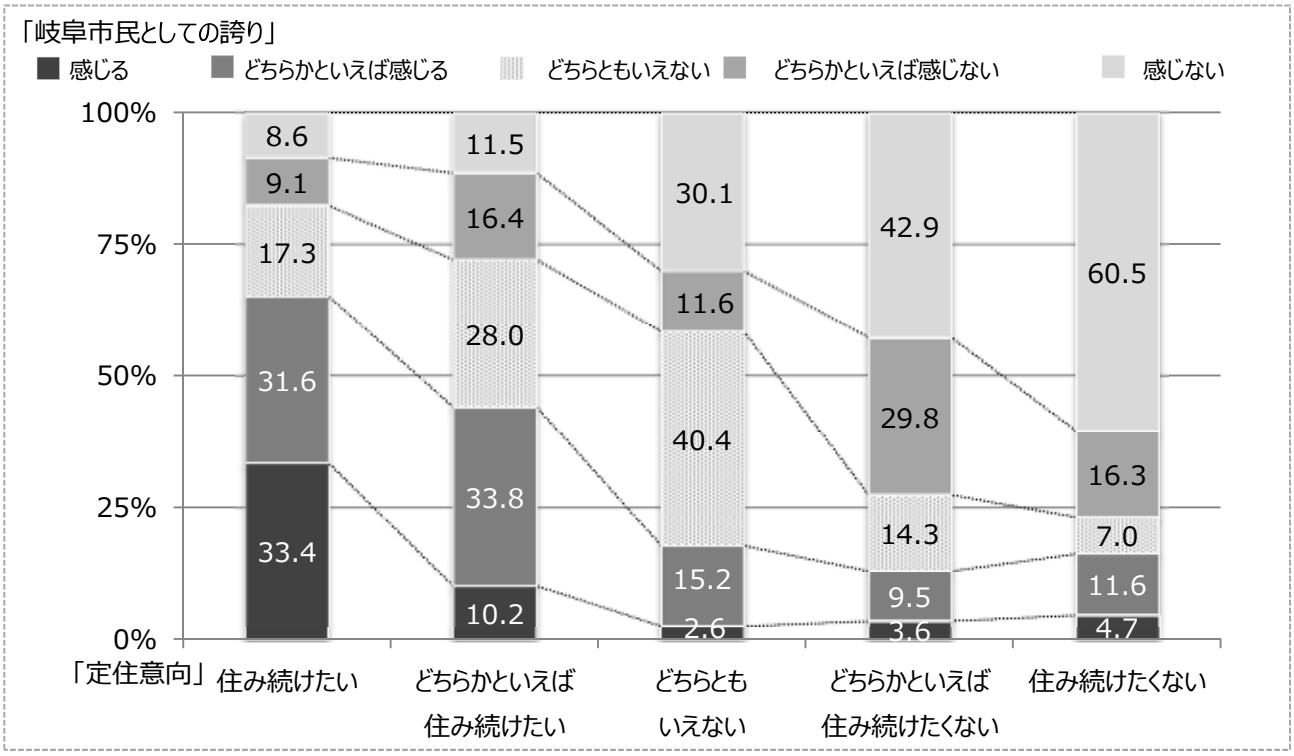
住宅別（「その他」を除く）に、「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「持ち家（一戸建）」（82.2%）が平均を上回った。一方で「持ち家（マンション）」（69.0%）では平均を大きく下回り、「社宅・寮など」（69.5%）、「民営・公営の賃貸住宅」（71.0%）でも平均を下回った。

世帯収入別構成とのクロス集計（一般市民）　n=1,966



世帯収入別（「わからない」を除く）に「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたくない」と回答した割合の合計を全体の平均（79.5%）と比較すると、「800万円以上～1,000万円未満」（82.6%）、「600 万円以上～800 万円未満」（81.5%）、「400 万円以上～600 万円未満」（81.1%）が平均を上回った。一方で「1,000 万円以上」（77.1%）、「200 万円未満」（79.2%）、「200 万円以上～400 万円未満」（79.3%）が平均を下回る、または近似した値となった。

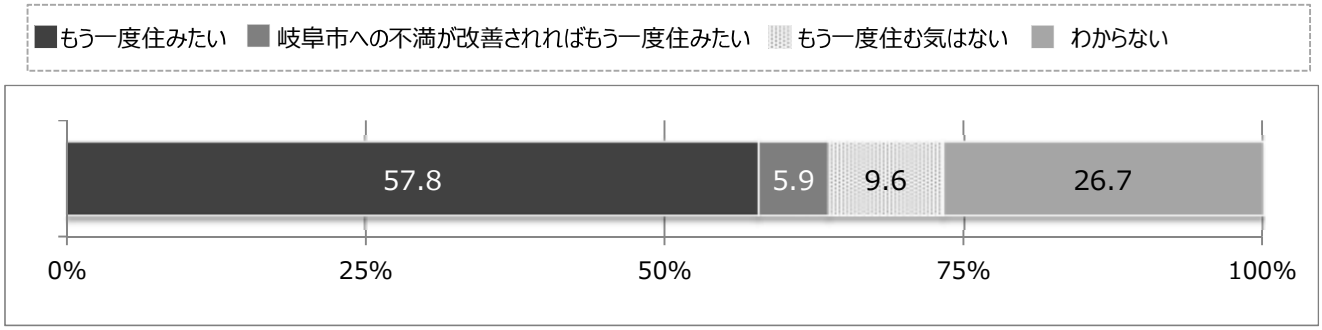
「岐阜市民としての誇り」（設問 31）とのクロス集計（一般市民）　n＝2,094



岐阜市に「住み続けたい」と回答した人の中で、岐阜市民としての誇りを「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した割合の合計は 65.0%となった。一方で、岐阜市に「住み続けたくない」と回答した人の中では、同様の割合が 16.3%と低くなっていることなどから、定住意向が高いほど、岐阜市民としての誇りを感じている割合が高くなる概ねの傾向がみられた。

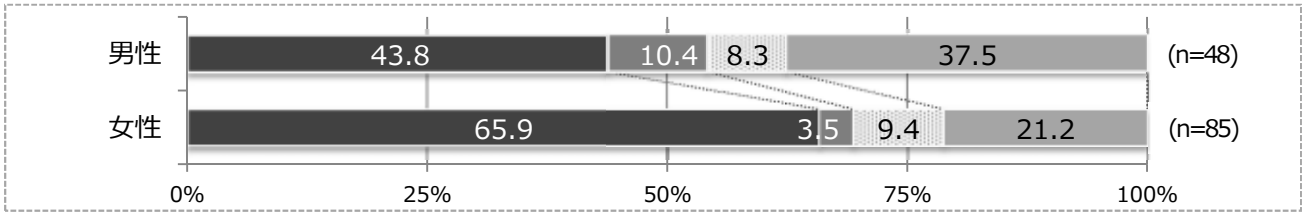
もし可能であれば、岐阜市にもう一度住みたいと思いますか。

転出者
Q4
n=135



岐阜市にもう一度住みたいかどうかについて、選択された割合が最も高かったものは、「もう一度住みたい」(57.8%)となった。

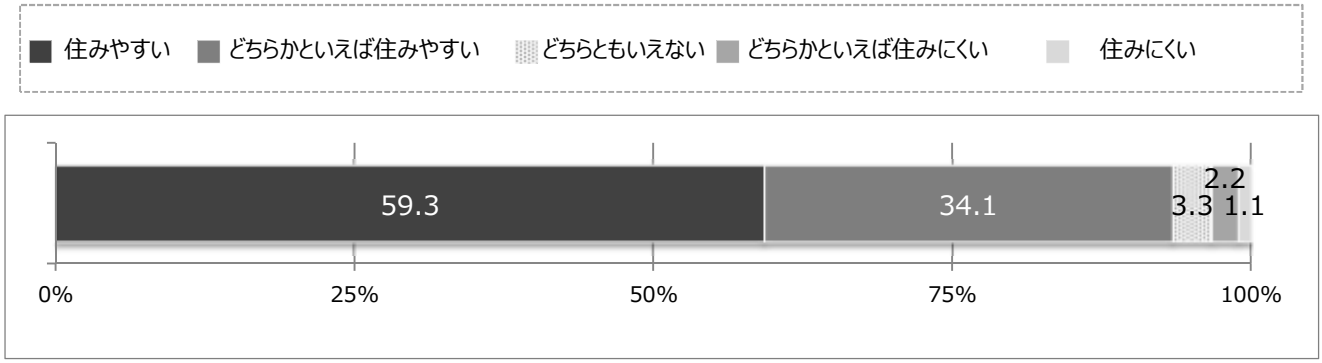
男女別構成とのクロス集計　n=133



男女別に、「もう一度住みたい」と回答した割合を比較すると、「女性」(65.9%)が「男性」(43.8%)を大きく上回った。

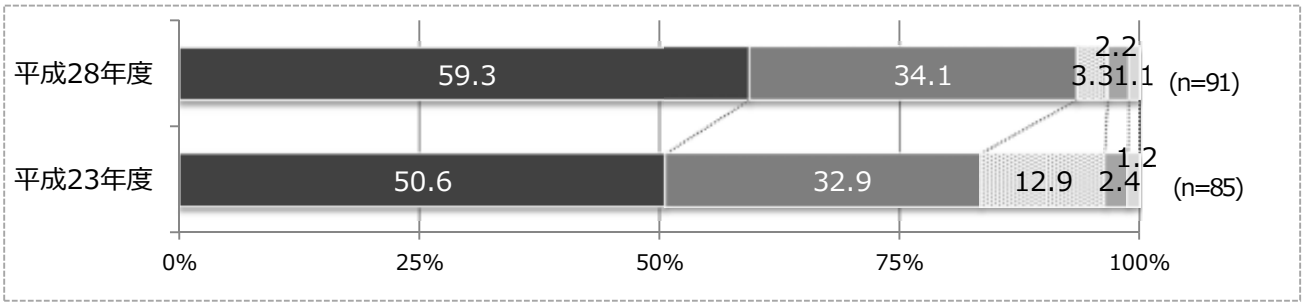
岐阜市は住みやすいまちですか。

外国人市民
Q1
n=91



岐阜市の住みやすさについては、「住みやすい」(59.3%)、「どちらかといえば住みやすい」(34.1%)と回答した割合の合計が 93.4%となった。一方で「住みにくい」(1.1%)、「どちらかといえば住みにくい」(2.2%)と回答した割合の合計は 3.3%となった。

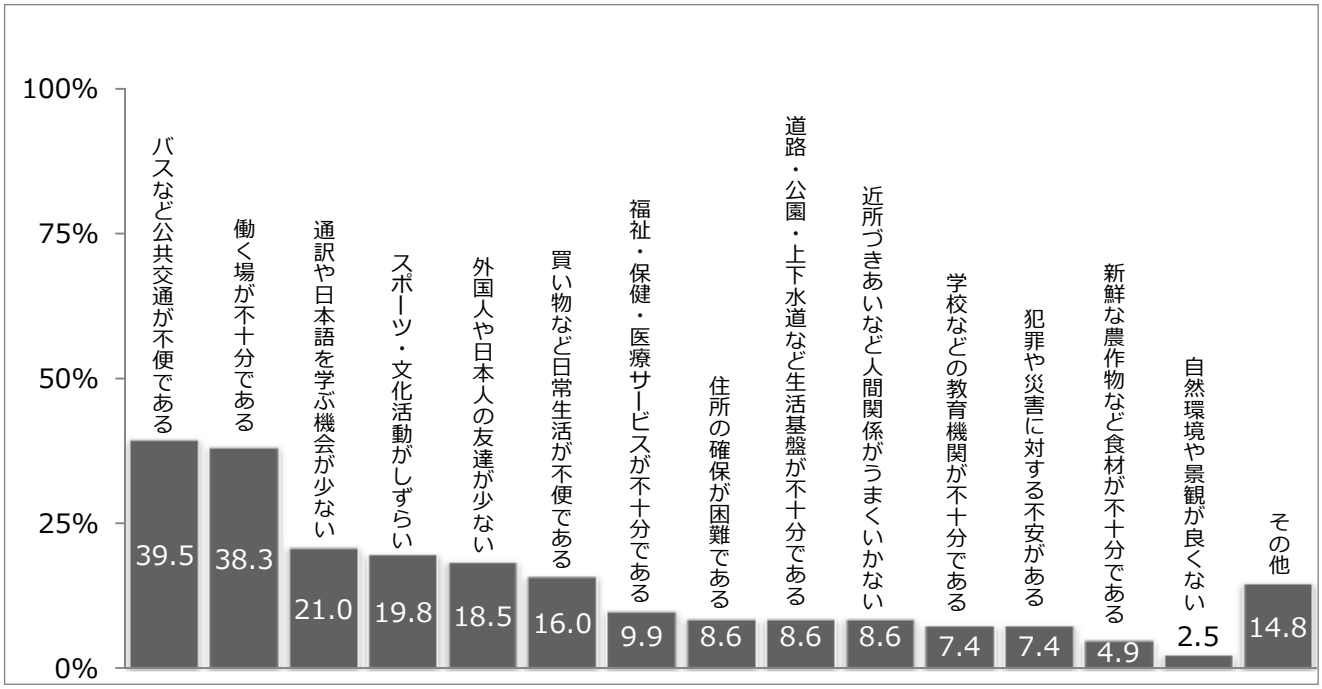
平成 23 年度との比較



過去の調査結果と比較すると、「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と回答した割合の合計は、平成 23 年度(83.5%)と比較して 93.4%と増加した。

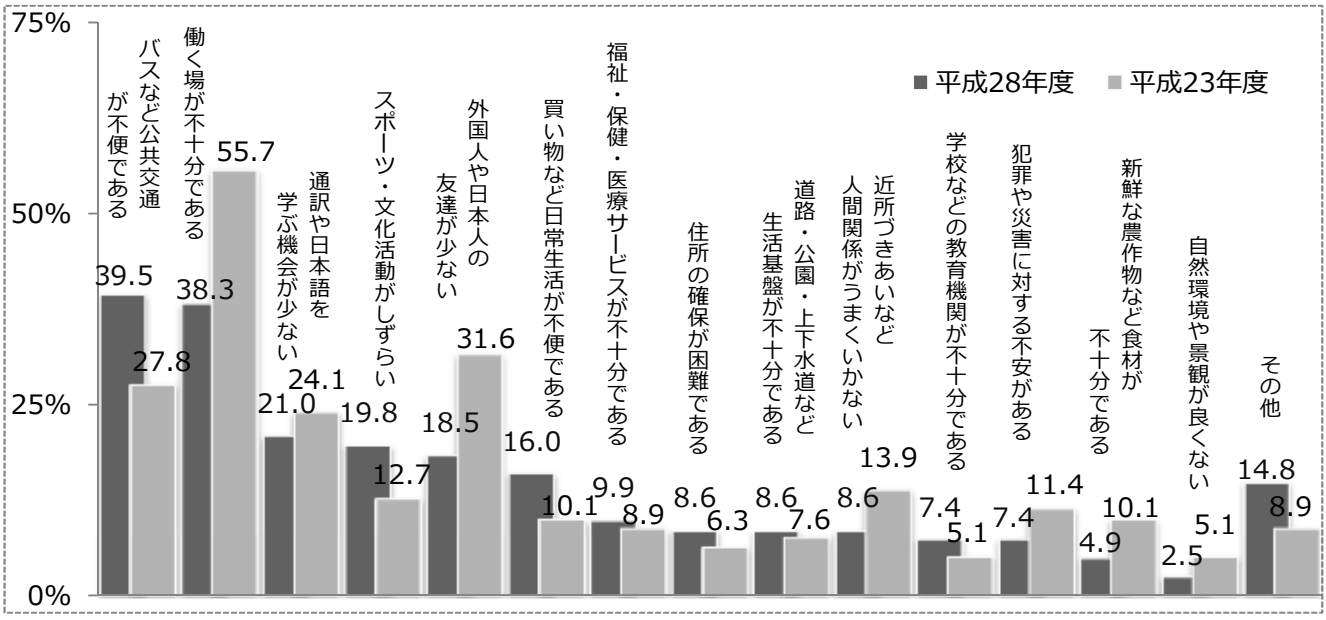
岐阜市に住み生活するにあたって、不十分であると感じることや、困っていると感じたことはありますか。（複数選択可）

外国人市民
Q4
n=81



生活するにあたって、不十分であることや困っていると感じることとして、選択された割合が最も高かったものは、「バスなど公共交通が不便である」(39.5%)となり、次いで、「働く場が不十分である」(38.3%)、「通訳や日本語を学ぶ機会が少ない」(21.0%)、「スポーツ・文化活動がしずらい」(19.8%)、「外国人や日本人の友達が少ない」(18.5%)が続いた。

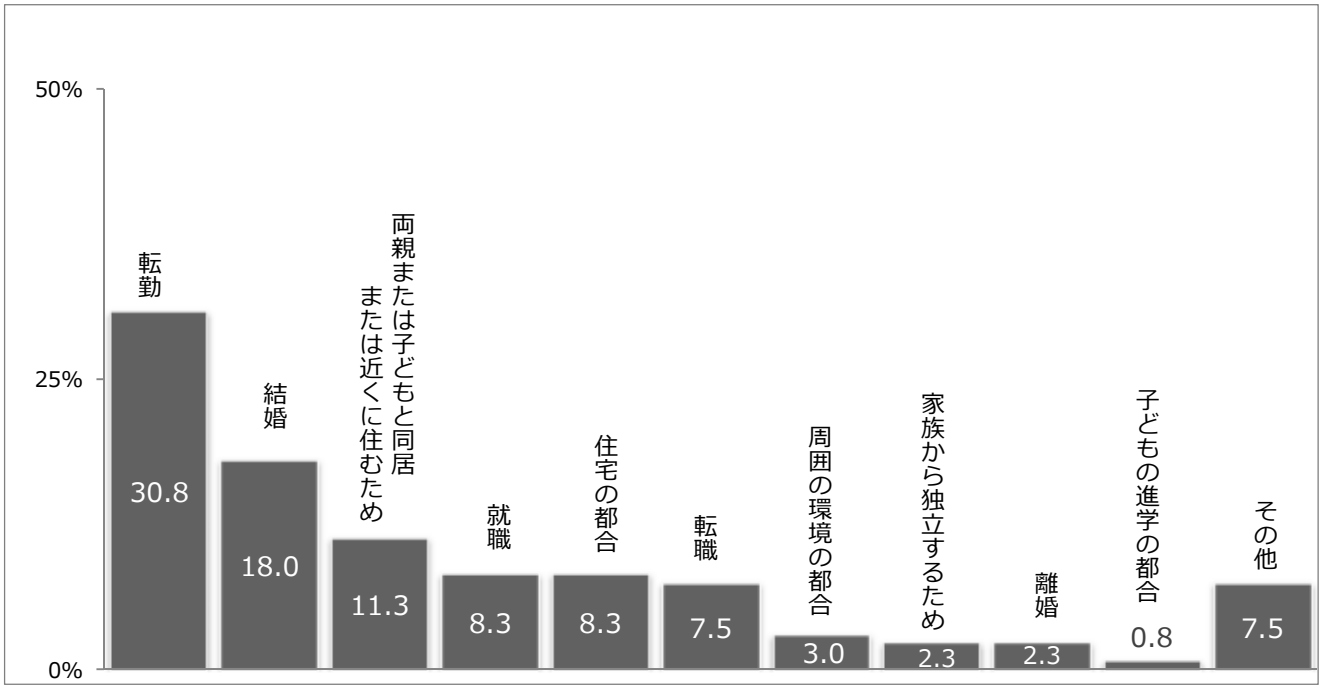
平成 23 年度との比較



過去の調査結果と比較すると、最も選択した割合が増加した選択肢は、「バスなど公共交通が不便である」(11.7 ポイント増「H23」(27.8%)→「H28」(39.5%))となった。また、最も選択した割合が減少した選択肢は「働く場が不十分である」(18.7 ポイント減「H23」(57.0%)→「H28」(38.3%))となった。

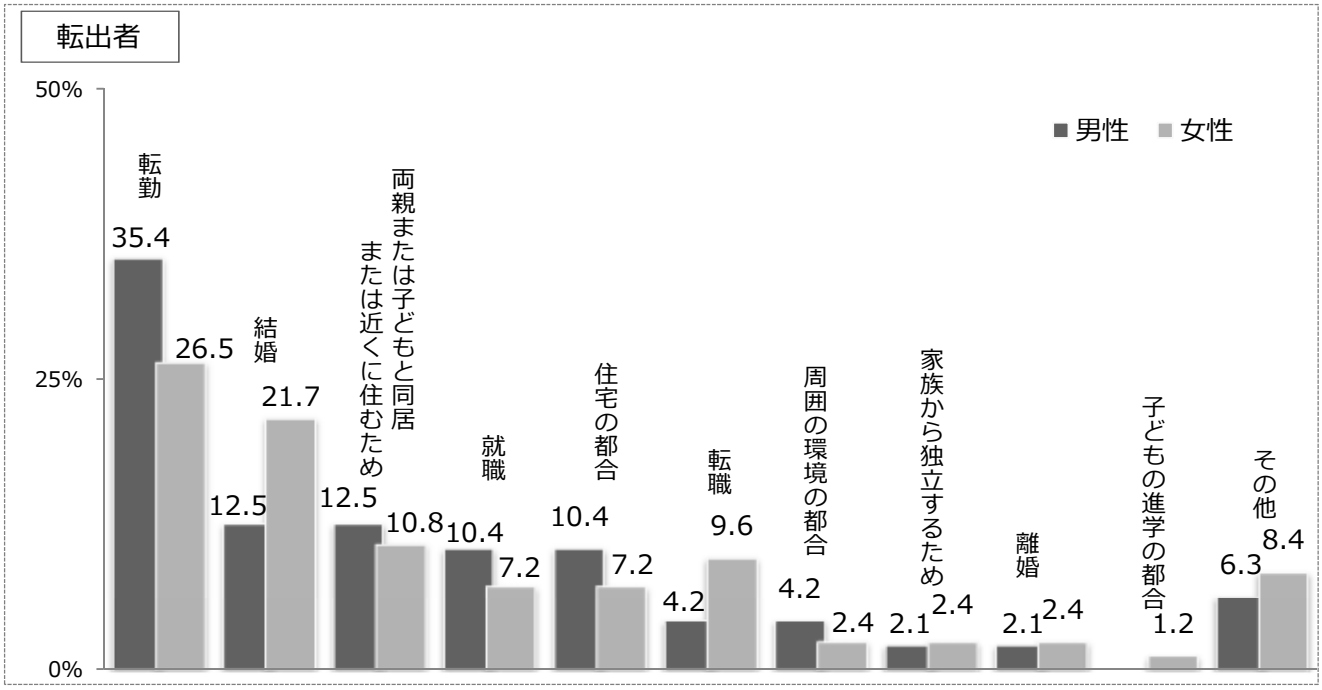
岐阜市から転出することになった最も大きなきっかけは何ですか。

転出者
Q1
n=133



転出することとなった最も大きなきっかけとして、選択された割合が最も高かったものは、「転勤」(30.8%)となり、次いで、「結婚」(18.0%)、「両親または子どもと同居または近くに住むため」(11.3%)、「就職」(8.3%)、「住宅の都合」(8.3%)が続いた。

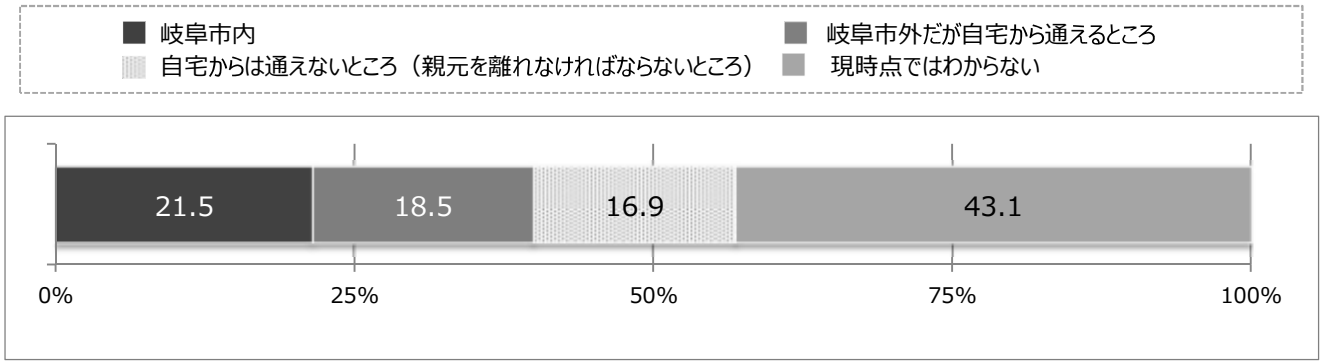
男女別構成とのクロス集計 n=131



男女別に、「転勤」と回答した割合を比較すると、「男性」(35.4%)が「女性」(26.5%)を上回った。また、「結婚」と回答した割合を比較すると、「女性」(21.7%)が「男性」(12.5%)を上回った。

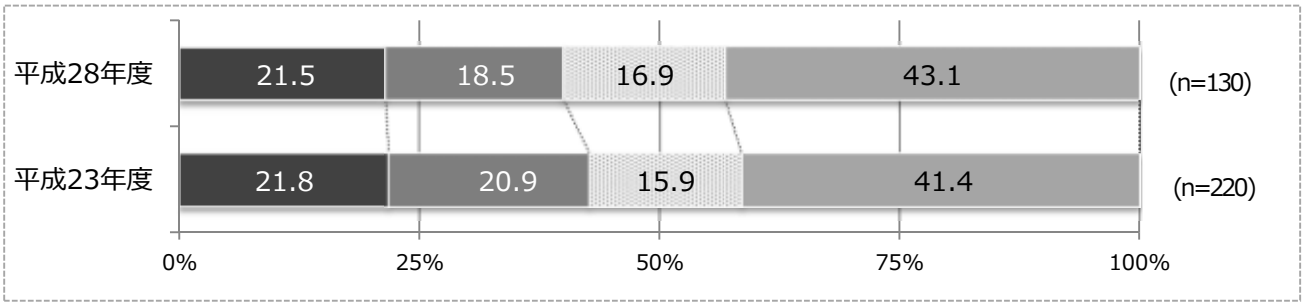
将来、大学・専門学校等への進学や就職先としてどの地域を考えていますか。

中学生
Q4
n=130



将来、大学・専門学校等への進学や就職先として考える地域については、選択された割合が最も高かったものは「現時点ではわからない」（43.1%）となり、次いで、「岐阜市内」（21.5%）となった。

平成 23 年度との比較



過去の調査結果と比較すると、「岐阜市内」と回答した割合は近似した値となった。